

社会福祉法人 原町成年寮

2020(令和2)年度 事業報告

目次

法人総括	-----	P1
葛飾通勤寮	-----	P3
奏かつしか	-----	P18
Craft	-----	P21
かつしかセンター	-----	P28
サザンクロスかつしか	-----	P30
ドロップ	-----	P35
はんもっく	-----	P36
糸でんわ	-----	P37
奥戸福祉館	-----	P38
アンジュ	-----	P46
シード/フォレスト/就労定着支援	-----	P51
シャイン	-----	P54
シャングリラ	-----	P62

2020年度 社会福祉法人原町成年寮 事業報告 (法人総括)

1 原町成年寮基本理念

① 就労・自立生活に向けた支援

原町成年寮は、一人ひとりの自立した社会生活を実現するため、多様な就労・日中活動支援を行っています。利用者の皆様が、社会の一員としての役割と責任を担いつつ、活躍し成長していただけるよう、日々支援しています。

② 豊かな人生をおくることへの支援

原町成年寮は、健康で安心・安全な生活を保障し、利用者の皆様が望む生活の実現をサポートしています。一人ひとりの個性を尊重し、日々の生活で豊かさを感じていただけるよう支援しています。

③ 地域社会への貢献をめざす支援

原町成年寮は、地域との交流や情報交換を行い、利用者の皆様が地域社会の一員として貢献できるよう支援しています。

2 法人計画

① 第7次プロジェクトの着実な実行

実現させた項目を下記に示す。

・高齢化対応 GH において第2東立石生活寮を改修工事で開設。順次、建設に向けて計画している。そのため高齢化対策員会からの提言を設計内容等に活用

・通所事業所について上記に対応するためシャングリラを開設。介護入浴の実現につなげた

・考課制度に伴い法人内研修制度の確立のため人材育成研修検討委員会において、内容を策定

② ドロップの移動支援縮小（必要な人材を必要な部署に配置）

福祉人材の不足に伴いドロップ事業を縮小して対応。早く元の状態に戻すべく採用検討を重ねている

③ アンジュからシャングリラ及びシャインに利用者を移動

シャングリラ開設に伴い必要な利用者移動を実施。定員変更等の手続を実施

④ アンジュは自閉症通所事業所とする

上記の福祉人材の不足感から実施せず。現状のつむぎ対応を継続

⑤ 第2かつしかセンター事務所をセンター3階に移設

3階に移設し情報共有の時間差を短縮

⑥ シャインの従たる事業所として新原町食堂を開設

原町食堂・キッチン KISS をシャインに移管。ロスの無い食事の一本化を実現

- ⑦ 葛飾区緊急一時保護事業の運営適正化を図る
適正運営の課題は残されている。葛飾区の福祉計画に反映
- ⑧ 法人防災拠点整備
奥戸福祉館から拠点整備（改修工事等）の議論を開始
- ⑨ 人材育成成長研修開始
研修検討委員会を開催
- ⑩ 高齢化に対応するため新グループホーム建設
GH「るりはな」を開設する段階。また第一原町成年寮の跡地に新規 GH 開設計画開始
- ⑪ 奏かつしかの定員増
定員増を実施
- ⑫ 障害者雇用率の達成
一名の雇用達成したが雇用率は未達成
- ⑬ 第 8 次プロジェクト（2021～2023）の策定
策定済み

葛飾通勤寮 令和2年度事業実績報告

一 総括

未曾有の新型コロナウイルスの流行と2度にわたる緊急事態宣言の中で終始した1年だった。それでも、今年度の利用者の動きとしては、入寮が男子4名・女子3名の7名、移行は男子11名・女子3名の14名だった。(令和2年3月31日付移行者6名含む)入寮女子2名は児童養護施設、1名は福祉型障害児入所施設出身。男子は全員家庭からの受入だった。家庭からの入寮は基本的に今後の自立を考えての入寮だったが、しかし、親離れ子離れの支援は一層力を入れざるを得なかった。入寮後に、家族から本人の自立を拒むような関わりがあり、再度通勤寮の役割や本人への関わり方などを提案させて頂くことが頻繁にあった。どちらかと言うと保護者の子離れ支援が多かった。保護者との信頼関係を作り、利用者には、「訓練施設」であることを繰り返し伝えてきた。

また児童養護施設出身者の傾向としては、知的な能力は高いが、自己肯定感が低く、弱い部分や欠点を見せないよう生活する姿が強く、精神的なところに対応する必要性を感じる。

男性移行者については、3年満期でグループホーム移行となった利用者と途中で家庭復帰した利用者とに分かれた。中途退寮は通勤寮の訓練施設としての支援に乗り切れなかったことが大きな原因である。女性利用者は連携型GHへの移行と、新たに法人で通勤寮直近に開設した滞在型GHに移行できた。

二 利用者主体の支援と具体的取り組み

1 利用者の生活支援について

規則正しい生活を送ることは、病気に負けない体をつくり、心を安定させる。通勤寮の起床・就寝時間が決まっていること、朝食の前の掃除分担など、利用者の負担は一定あるが、生活の基本である自力起床・朝食を摂り出勤することという当たり前のことを大事にする。しかし、コロナ禍においては、外出制限や在宅・待機となり、また密な対応を避けるということが求められ、利用者にとって支援は苦勞の連続となってしまった。

2 通勤寮(宿泊型自立訓練事業)の目標と支援原則

一 障害があっても社会に貢献できる人材を育てるということを大きな目標とする。

親離れ子離れを目指し、利用者本人が自分の人生を「自ら選択」できるようになることを目標とする。

① 4つの自立を獲得目標の柱とし、自分自身の「強み」と「課題」を理解できるようになること。

1. 生活の自立

(身のまわりのことを自分でできるようになること。時間を意識し、生活リズムを確立すること)

2 経済的自立

(就労の安定。社会貢献していることを意識できる。自分の給料で金銭管理ができるようになること。障害基礎年金の受給。)

3 社会的自立

(適切なコミュニケーションを身につける。他者と良好な関係が築ける。法令や社会規範・社会倫理を理解し、大人としての行動を意識できるようになる。)

4 精神的自立

(相手を思いやることができる。自身の気持ちに素直になり、自分の意見を伝え、精神安定を目指す。)

② 自分の人生を「自分で選択」できるようになり、確実な自立を目指す為に必要なこと。

1. 自分の考えや思いを表現できるようになること。
2. 率直に自分の課題を認め、強みを伸ばせるようになること。
3. 生活を整え、就労継続できる精神と力をつけること。
4. 着実に社会の一員としての自信をもつこと。

二 自立し豊かな生活を実現するための支援内容

1. 3ヶ月に一度の個別支援計画で、利用者の考えや想いを引き出し、強みを最大限に伸ばす支援。
2. 生活を整えるための、個々の生活のリズムを確認・確立する支援。
3. 日々の生活の中で、金銭ノートを活用し、金銭感覚を養う。
4. 利用者個人の想いを利用者個人が引き出せる支援。それを受け止める支援。
5. 個人の生活を尊重し、通勤寮後の生活を意識した支援。
6. 職場訪問を定期的実施、職場と連携し、安定した就労を支援。
7. 集団での生活で、帰属意識を養う支援。
8. 金銭、身辺、性教育等のプログラムの活用。余暇の充実。
9. 通勤寮で親離れ子離れができるような、保護者を含めた支援。また適切な距離が取れるようになることの支援
10. SNSも含めた、携帯電話の使い方や、世の中の動きを利用者に適切に伝えて行くような支援と併せて性教育にも力をいれる。

新型コロナウイルス感染防止のために、外出自粛が求められ、携帯電話に依存する利用者が多く、精神的な支援の必要性がより求められる1年でもあった。

3 獲得目標4点についての具体的取り組み

寮内での密を避ける必要から、集団での取り組みを一定制限することになり、一部具体的な取り組みが出来ないことがあったが、制限の中での取り組みとなった。

① 生活の自立

職員夜勤明けの居室確認を徹底し、必要に応じて記録として引きつぐことを意識し、身辺の日に、どうしていくかの確認や実施の方法を伝えることができたと思われる。しかし、身辺に課題のある利用者が男女とも増えている。

② 経済的自立

コロナウィルスの感染拡大により、定期職場訪問による職場との調整が困難となる中で、工場閉鎖退職、勤務時間・日数の短縮・自宅待機・在宅ワーク等、就労に大きな影響がでたが、給与振り分け、日常的な金銭ノートの点検などを実施した。障害基礎年金の申請では2名の利用者が20歳をこえる事になった。所得が高く申請を利用者と検討することとしている。

③ 社会的自立

男女別のミーティング、月1回の教養講座、自治会活動などを通じて、はたらきかけを行った。教養講座としては、年間予定を立てたが、緊急事態宣言により一部中止せざるを得なかった。通勤寮でのルール・健康管理・情報の受け取り方・国政調査・パブリック、プライベートスペース・感染症対策・LGBT理解等を実施した。

④ 精神的自立

余暇支援、日常の相談、カウンセラーによる面談などの具体的な取り組みを実施。カウンセリングは3名が通年実施した。

月1回のカウンセリング終了時にはカウンセリング記録をもとに、カウンセラーとの情報交換を行い、支援に活かしている。生育歴からくる根深い精神面の課題を抱えている利用者が多く、必要な利用者を見極めて、カウンセリングや医療につなげていく。精神的自立の部分は4つの自立の中でも根幹なので、支援者の取り組みの比重も年々大きくなっている。

4 オリエンテーション

新型コロナウイルス感染拡大防止と予防の観点から、今年度は出張オリエンテーションは中止とした。そのかわり、通勤寮内で連携型GH利用者を含め通勤寮の支援の柱である4つの自立（生活・経済・社会・精神）について、職員からの講義の後、利用者自らの課題の確認のための個別点検表を作成している。また、自治会役員の選挙を実施した。

5 プログラム全般について

通勤寮の利用者全員参加の全体行事としては、納涼祭・サマーキャンプ・班旅行・成人式・自治会企画行事があるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、食事会や集団で集まることに関しても中止とした。緊急事態宣言の再発令に伴い、外出自粛を利用者にも要請した。唯一成人式に関しては、一生に一度のことと、保護者関係者の気持を考慮し、例年通りには行かないが、晴れ着・袴で正装し、柴又帝釈天へのお参り・写真撮影・地元料亭弁当をお土産にして、保護者から感謝された。

6 週間プログラム及び余暇支援

金銭（毎火曜日）・身辺（毎週金曜日）・自治会（月1回第4木曜日）・大掃除（月1回最終日曜日）教養（毎月第3金曜日）を実施した。

ア 金銭学習

給与振り分け表を使っての収入と支出の学習を基に、生活費1週間管理者の支給のみの日・個別費用点検の日、振り分けの日を分けて毎週実施した。金銭管理ノートは毎日の点検

を義務つけている。目標は必要な物が予算内で購入できるようになること、生活費ノートがつけられるようになることである。給与引き出しは原則利用者本人が実施しているが、困難な場合には職員が代行している。また、就労移行支援事業所・B型事業所 Craft 通所中の利用者に合わせた振り分け表（生活保護受給者向け）も使用している。

イ 身辺指導

3年かけて身辺に取り組んだ男子利用者は、意識の向上が顕著であることを実感した。クローゼットやタンスの中、洗濯の確認や布団干し、シーツの交換、古い汚い衣類の処分や新しい衣類の購入など、毎週金曜日の身辺プログラムで取り組んだ。帰寮時にきれいな居室に入る気持ちよさや精神的安定につながる支援を今後も検討していきたい。

細かい部分の確認が必要な利用者が多いので、夜勤明けの居室点検、課題を夜の勤務者に引き継ぐスタイルを継続して取り組んでいきたい。

ウ 性教育等の教養講座

○ 男子利用者

男子ミーティングとして、原則月1回実施予定だったが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言の発令により、寮内でも密を避ける必要があったため、毎月の開催は困難だった。1年間のテーマは昨年同様「自分を知り、相手を知る」ことで、前期では「身だしなみ・気持ちの出し方伝え方について」、後期では「相手のこと思いやる、受け手側として気をつけること」などに焦点を当てて話しをしている。恒例行事の「芋煮会」は十分距離を取って、水元公園で何とか開催できた。

○ 女子利用者（茶話会）

新型コロナウイルスの影響で利用者が密になる状況を避けるため、体育館で実施。年明けからは緊急事態宣言のために、集まりを中止した。目的は「身体を知る」「自分と向き合う」「男女の違いを知る」「人との距離感を覚える」「自己肯定感を持てるようにする」等、女性利用者は内面的に課題を抱えている利用者が多く、同じ時間を性教育の時間で共有していくことも大切である。

エ 調理教室

新築により、新しく調理実習室が出来、IHが設置されたことにより安全に調理ができるようになった。月1回日曜日を利用し、年度を通じて3名の男子利用者に留まったが、緊急事態宣言の影響で半数回中止となってしまったことは残念である。

オ 裁縫クラブ

月1回土ないし日曜日に実施。ボランティアの協力でコースター刺繍やポーチを作成しているが、参加者は4名に留まっている。新型コロナ感染防止のために年4回は中止となったのは残念である。

カ 夕食会・卒寮式

夕食会・卒寮式は会食・対面・密となっていしまい、コロナウィルスの感染防止対策からも、実施できなかった。

7 余暇活動の支援（全体行事や地域支援の実施）

2度にわたる緊急事態宣言の発令・不要不急の外出自粛要請・会食の自粛等、コロナ禍の中では、密が基本の行事実施は不可能だった。例年実施してきた納涼祭・サマーキャンプ・班旅行・通勤寮・Craft 合同「かつくら祭」も中止とした。

正月旅行についても、今年度は中止とし、寮内で近隣の GH 利用者とともに、お節料理を頂く形に変えた。

また男子 6 名・女子 5 名が新成人となったが、寮内でお祝いすることは不可能となり柴又帝釈天へのお参りという形で実施した。

8 個別支援計画と個別記録の作成

3ヶ月に一度の作成は厳しいが、個別支援計画作成により、利用者の本心を引き出したり、職員との信頼関係作りの方法として重要なものなので、負担軽減対策を実施していきたい。

9 職場定着支援

今年度中に、法人内就労移行支援事業所を利用していた 4 名が一般就労を果たし、同様に、就労継続 B 型事業 Craft を利用していた 1 名が年度末に企業就労を果たしている。東堀切に移転後は企業就労を目指す利用者も受け入れることからこのような傾向が今後も続くだろう。一方コロナ禍の影響により、勤務時間・日数の短縮、自宅待機・在宅ワークの要請により収入の減少・体調への悪影響も出てきており、まだまだ先の見えない状況ではあるが、就労継続が可能なよう支援していきたい。

10 地域移行支援

今年度は 10 名の利用者が地域移行した。(家庭 4 名除く) GH は 2 名が連携型・1 名が他法人・法人内既設 2 名・新規開設 5 名となっている。今年度も 2・3 年目の利用者を対象に GH 見学会を実施している。個別支援計画の中で、次の生活の場に移行するために何が必要で課題は何か考えて確認した。各関係機関との連絡調整、法人内居住支援調整会議で GH 移行希望者を提案し、円滑な移行を実現した。

11 連携型グループホーム(葛の葉)の運営支援

開所 4 年目を迎え、連携型 GH としての必要な支援内容が明確化されてきた。連携型は通勤寮と同程度の利用期限がある訓練型であり、他の滞在型 GH とは差別化・区別化が求められる。今年度は新型コロナウイルス感染防止のために、職場との関連で、利用者が濃厚接触者とされ、一定日数 GH を隔離する措置をとった、幸い陽性者はでなかった。

12 利用者健康管理

○新型コロナウイルスの感染拡大により、第一次緊急事態宣言中の令和 2 年 4 月後半から男性利用者の発熱が続き、通勤寮内感染拡大防止の為には、初動体制が重要と判断し、通勤寮全体の隔離を実施した。当時は PCR 検査もすぐ受けられず、相談場所もない状態だったため、診療機関をようやく見つけ、肺炎と診断され、その後 PCR 検査を実施して陰性と診断され、隔離実施 7 日後に隔離を解除した。通所事業所の人的協力なしには隔離は不可能だ

った。その後の全国的な感染拡大に伴い、通勤寮内でも消毒の対策、食堂の椅子を減らし密にならない配慮・全体集合場面の減少化・原則居室内生活の徹底など、感染予防に取り組んでいる。

○6月・12月の年2回健康診断は健診業者の協力もあり実施できた。インフルエンザの予防接種も12月の健診時に可能となった。

○健康管理の取り組み

肥満のひどい2名の利用者に対して、調理職員と協力して油物を控えるなどの対策を実施して減量に取り組んでいる。

○服薬管理

現在、事務所の服薬ボックスで管理している利用者は、てんかん2名・抗精神薬5名 心臓病・高コレステロール・生理周期の安定・睡眠導入剤・アトピー各1名となっており、投薬管理利用者が増えている。服薬セット時のヒヤリハットをきかっけに情報を服薬箱に貼り、より正しく確認できるよう配慮している。

○カウンセリング

カウンセリングは男子1名・女子3名が実施。生育歴から来る根深い精神面の課題を抱えている利用者が多いので、支援上の必要性は高く、今後ともカウンセラーとの連携を図っていく。

1.3 自治会活動への支援

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が行えず、例年実施している出し物が行えなかった。そのため自治会としては月曜日に行っている集まりのみとなってしまった。意見を伝えることを苦手としている利用者もいるので、必要に応じて声かけと内容の整理を行うことで、伝え方の確認ができたと思われる。2月に役員から提案のあったアンケートによる意見の回収は、集まれない状況での意見交換にはとても良いものと思われる。スピーチフォーラム（関東地区通勤寮利用者集会）は中止となった。

1.4 利用者預り金管理及び日常の金銭処理

利用者現金袋の管理代行については、個別残高の把握と安全管理を徹底したが、給料振分を敏速に実施する必要があった。振分け者以外の利用者の現金管理については、定期的なチェックが後手にまわることもあった。携帯電話利用料が口座引き落としの利用者が多くなっており、利用料の把握のためにも、通帳記帳は迅速に行う必要があった。預り金の総額は、就労移行支援・就労継続B型事業利用者がおり、また一時的に生活保護を受給している利用者もいて、総額は5千百万円となっている。

三 利用者の現況

1 利用者の状況

○平均年齢は男子は25歳7ヶ月、女子は20歳7ヶ月で、男子は昨年より1歳2ヶ月増えた。女子は昨年より1ヶ月若くなった。全体の平均年齢は24歳9ヶ月となっている。

○利用期間の平均は一昨年が1年6ヶ月・昨年が1年5ヶ月、今年度は3ヶ月多い1年8ヶ月だった。昨年が12名、今年度は14名が移行している。新たな移行先として連携型GHがあり、通勤寮利用は2年間で3年目に連携型に移行する仕組みである。今年は2名連携型に移行した。女子の入寮希望が多く、定員も少ないので女子待機者はあまり減らない。移行者の平均利用期間は2年4ヶ月で、昨年より4ヶ月少なかった。

○利用者在籍の平均は、1昨年27、2名、昨年28、1名、今年度は26、5名となった。年度の前半は新型コロナウイルス感染防止のために、見学・面接を見合わせたことが大きい。結果として、充足率は昨年の81%から76%と5%下がった。地域移行、入移行に伴う家庭・職場訪問等の調整には時間がかかり、新型コロナ禍が拍車をかけた。それでも7名が入寮し、移行者は14名で昨年より6名多い。1年間に21名が移動したことになる。

ア 障害の程度（令和3年3月当初現在）

	男	女	計
愛の手帳3度			
同4度	18	6	24
その他	他県1	他県2	3
計	19	8	27

イ 年齢別構成（同上）

	男	女	計
15歳以上20歳未満		1	1
20歳以上30歳未満	17	7	24
30歳以上40歳未満	2		2
40歳以上			
計	19	8	27
平均年齢	25歳7月	20歳7月	24歳9月

ウ 利用期間状況（同上）

	男	女	計

1年未満	6	4	10
1年以上2年未満	7	2	9
2年以上3年未満	6	2	8
3年以上			
計	19	8	27
平均	1年8月	1年3月	1年8月

エ 保護者の状況（令和3年3月当初）

	父母あり			父母なし		なし	合計
	両親	父のみ	母のみ	兄弟	他		
男	12	1	6				19
女	1		4			3	8
計	13	1	10			3	27

オ 令和2年度利用者在籍状況（当月末）（4月の移行6は3月31日付）

	男			女			在籍合計
	入寮	移行	在籍	入寮	移行	在籍	
4		4	19		2	6	25
5			19	1		7	26
6			19			7	26
7			19			7	26
8		1	18	1		8	26
9	1		19			8	27
10	1	2	18	1		9	27

1 1	1		1 9			9	2 8
1 2	1	1	1 9			9	2 8
1			1 9			9	2 8
2			1 9		1	8	2 7
3		3	1 6			8	2 4
合計	4	1 1	2 2 3	3	3	9 5	3 1 8
平均			1 8 . 6			7 . 9	2 6 . 5

カ 令和2年度入寮先（当月末）

	家庭	障害児入所施設	児童養護施設	里親	障害者支援施設	G.H	自活	その他	合計
男	4								4
女		1	2						3
計	4	1	2						7

キ 令和2年度移行先（当月末）

	連携型 G.H	GH	家庭	自活	障害者支援施設	里親	職場寮	その他	合計
男		7	4						1 1
女	2	1							3
計	2	8	4						1 4

ク 令和2年度移行者の利用期間

	半年未満	半年～1年	1年～2年	2年～2年半	2年半～3年	3年以上	合計	平均
男	1	1	1	2	6		1 1	2年3月
女			2		1		3	2年4月

計	1	1	3	2	7		14	2年4月
---	---	---	---	---	---	--	----	------

2 利用者の就労状況（令和3年3月当初現在）

令和2年度当初は就労移行支援事業所3名、就労継続支援B型事業所1名だったが、2年度中に企業就労が可能となった。

平均賃金は3月当初で、男子133,000円で昨年より3,000円減、女子は155,500円で昨年より10,000円増えた。最近の賃金の考え方は、最低賃金を基準とする事業所と高卒を基準にするとところと2分されてきており、この傾向は大手特例子会社でも変わらない。また、勤務時間が社会保険適用ぎりぎりの事業所もあり、家賃が免除される通勤寮でも、預金が増えない利用者もいる。これらの利用者は障害基礎年金等の所得保障がないと、今後の地域移行が困難になる。（毎月決まって支払われる賃金の総額（基準賃金）で算出）

ア 利用者の賃金形態（企業就労者のみ）

	月給	日給	時給	合計
男	8	1	9	18
女	3	1	4	8
計	11	2	13	26

イ 社会保険の有無（当初者全員）

	社保	国民健保	なし	生活保護	合計
男	17	1		1	19
女	8				8
計	26	1		1	27

ウ 月額平均賃金（基準額・企業就労者のみ）

	50,000 ～69,999	70,000 ～99,999	100,000 ～149,999	150,000 ～199,999	200,000 ～	合計
男			11	7		18
女			4	2	2	8

計			15	9	2	26
---	--	--	----	---	---	----

エ 職種

職 種	男	女	合 計
食 品 加 工	2		2
硝 子 加 工	1		1
リ ネ ン	1		1
食 堂 補 助	1	1	2
事 務 補 助	4	2	6
清 掃	4	2	6
物 流	3	1	4
ス ー パ ー	1		1
介 護 保 険 事 業 所	1	2	3
就 労 移 行 支 援 事 業			
就 労 継 続 B 型 事 業	1		1
失 業			
合 計	19	8	27

四 体験入寮・短期訓練事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、年度前半は受入を制限した。

○短期訓練事業（特別支援学校卒寮者・在宅者対象）

地域生活の中で自立ができるよう、意識してもらうため、通勤寮で体験していただいた。新型コロナウイルスの感染拡大のため、利用者は6名で、延べ日数32日に留まった。昨年は16名延べ日数117日で、利用は大幅に減った。ちなみに入寮者は1名。

○体験入寮事業（特別支援学校生徒対象）

地元特別支援学校進路担当教諭を窓口として、コロナの影響もあり、事前に文書にて健康面の経過観察をお願いするなどして実施した。体調不良で中止の場合もあった。第1次緊急事態宣言の後8月から開始した。今年度実績は20名延べ日数151名で昨年の18名延べ日数94日より増えた。昨年度はトコジラミの発生のために消毒を重ね、利用中止期間が長かったためである。

全体としては、新型コロナウイルス感染拡大により利用者は減少している。入寮を前提ということもあるが、早めに機会を提供することにより、本人たちが選択肢の一として考えていけると思う。体験入寮・短期訓練事業ともに、通勤寮の地域貢献及び利用者の確保対策としても極めて重要な事業である。

五 給食

1 衛生管理

○今年度コロナ禍の中、ほとんど全ての行事等が中止となり、大変な1年だった。その中で、通勤寮では職員・利用者誰一人感染せず安堵している。全ては手洗い、うがい、消毒の徹底に尽きると判断している。調理業務も衛生管理の徹底で事故を防止できた。食堂・厨房内の清掃も同様に2ヶ月に1回の定期清掃を実施した。

2 食事支援と献立

○栄養士との献立検討会を月1回行い、利用者の好みを取り入れた献立作成とバランスの良い食事提供を心がけた。また、嗜好調査・残滓調査を実施した。特に残滓調査では、残食がほとんどないことがわかった。ダイエットが必要な利用者には、その利用者にあった食事を提供した。今後も、利用者の健康をサポートできる、安全・安心な食事の提供を心がけていきたい。

六 保護者との連携・広報

○家族

新型コロナウイルスの感染防止の観点から、家族の来寮や利用者の定期的な帰宅を制限することとなった。特に年末年始の帰宅に関しては、家庭での検温実施を要請した。9月の個別面談、12月の保護者会は中止とした。その代わりに、法人広報誌（原町かわら版）を年4回発行するとともに、身近な通勤寮の話題を提供するため、「葛飾通勤寮ニュースレター」を3回発行した。

○通勤寮プログラム体験

特別支援学校生徒さん向けに、利用者が主体となり通勤寮でのプログラム内容を話してもらいより理解を深めてもらうためのプログラム体験に関しても、今年度は中止とした。通勤寮への理解を深め、利用者の生活の自覚を高めるためにも、来年度は実施する予定。

七 地域関係・防災

1 地元町会含めた地域との良好な関係構築

平成29年3月に東堀切地区に新築移転し、地元東堀切町会に加入、災害活動応援協定を結び、町会の消火器を通勤寮駐車場に設置している。地元との交流行事については、7月の子供会行事支援、お祭り参加、町会防災訓練に参加しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止と緊急事態宣言により、全て中止となった。また地域開放行事として、併設の Craft と共同で「かつくら祭」を開催しているが、集合・密を避ける、感染防止のために中止とした。

2 防災訓練その他

消防計画では毎月の避難訓練を実施することになっているが、今年度は防災館体験ツアーが全て中止となったので、年6回の避難訓練のみを実施した。避難訓練としては Craft と連携した日中避難訓練の必要があるが、今年度は実施できなかった。また、BCP 計画については、新型コロナウイルスの感染防止対策のために、修正のための議論をしている。

八 その他の活動

1 苦情解決事業

毎月1回第三者の苦情受付委員（オンブズマン）に来て頂き、利用者からの訴えを聞いていただいていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のために、定期的な訪問が不可能となり、実現できていない。苦情受付窓口への苦情案件はなかった。

2 利用者への虐待防止対策

虐待防止対応規定により、新たに管理会議構成員による虐待防止委員会を開催した。また指導会にて必要な情報提供をおこなった。虐待防止職員セルフチェックシートを配布し啓蒙している。支援員を対象としてリスクマネジメントに関する内部研修を実施しているが、外部研修はリモートのみとなり、派遣できなかった。

3 福祉サービス第三者評価

実施すべく準備を進めていたが、利用者聞き取りの段階で新型コロナウイルス感染防止のためにも、外部からの第三者訪問は望ましくないため、今年度は中止とした。昨年度からの指摘事項である①水害対策も含めた PCB（事業継続計画）の整理②キャリアパスに示された、スキルや知識を習得するため、職員一人一人の個別育成計画の策定。③円滑に世代交代できるよう、事業所の経営を担う人材育成に注力していくこと。については、今年度の課題として取り組んだ。

4 個人情報の保護

個人情報保護規定に基づき、個人情報の保護に努めるほか、利用者の必要な個人情報の提供については、入寮時に情報提供同意書を全利用者から頂き、対応している。

5 リスクマネジメントに関する取組

今年度のヒヤリハット及び事故報告は、金銭管理に関する報告2件・物品紛失が2件投薬誤配置3件、書類提出申請の遅れ1件だった。指導会において毎回議題として採り上げ報告。原因究明と対策について討議している。

6 職員の支援力と連携強化のための取組み

勉強と連携強化の場として、支援員会議を適宜開催した。虐待防止法・リスクマネジメント学習など実施した。

九 職員状況

1 健康管理

常勤職員は年2回、交代勤務のないパート職員は年1回健康診断を義務づけ実施した。再検査を指摘された場合の受診の有無について、徹底するよう指導した。

2 メンタルヘルス・ストレスチェック等の実施

法人内安全衛生委員会に担当者を派遣し、メンタルヘルスについての情報を共有している。法令により今年度第5回目のストレスチェックを実施した。

年度当初の第1次緊急事態宣言の発出、新型コロナウイルス感染防止、利用者の感染疑い居室隔離等の体制が求められ、現場のストレスは極めて高くなった。

3 有休休暇取得

支援職員の有休取得については、新型コロナウイルス感染防止対応のための夜勤の増加や職員の休職により、昨年ほどは取得できず、計画的付与制度上限を何とかクリアしているが、厳しい1年だった。

4 研修・業界団体との連携・実習生の受入等

ア 実習生の受け入れ

今年度はコロナ禍の中でも要望が強く、福祉系大学から2名を受け入れた。

イ 他機関とのネットワーク及び職員派遣

地元関係機関との連携・関係団体への職員派遣については、東京都社会福祉協議会・東京都発達障害支援協会・東京都生活サポート協会へ、集合・対面は実施せず、リモート形式で参加した。

ウ 外部・自主研修への参加

○ 外部研修

新型コロナウイルス感染防止・2度の緊急事態宣言により、従来型の集合・対面形式の研修はほぼ中止となった。年度途中からリモート形式の研修が若干始まったが、機材が必要なため、参加はほとんどできなかった。

てんかんセミナー 2名

福祉協会・部会協議会 1名（リモート参加）

○ 系統的な人材育成計画に伴う法人内部研修

新任研修 3名

通年実施

主任等自己啓発研修（全体研修を兼ねる）

該当者なし

人事考課制度実施に伴う研修 2名

定期的を実施

備考 入寮・移行先寮一覧

（昭和52（1977）年10月1日～令和3年（2021）年3月31日現在）

入寮先	人数	移行先	人数	移行時就労状況				
				一般	福祉	無		
家庭	317	連携型GH	7	7				
障害児入所施設	65	G H	311	302		8		1
障害者支援施設	48	家庭	130	69		28		33
児童養護施設	54	単身生活	14	9		2		3
授産施設	3	職場寮	4	4				
一時保護	7	障害者支援施設	40					40
G H	15	授産施設	1			1		
職場寮	9	救護施設	1					1
単身生活	9	精神病院	5					5
精神病院	5	矯正施設	1					1
矯正施設	3							
その他	5	その他	2					2
合計	540		516	一般 391	福祉 39	無 86		

その他内訳 入寮5（自衛隊・他通勤寮2・生活保護施設・里親） 移行2（死亡・里親）

2020年度 奏かつしか 事業報告（案）

通勤寮連携型グループホーム「葛の葉」、滞在型グループホームとして「ことの葉」今年度4月に「ひと葉」「ふた葉」を開設した。奏かつしかとして計14名の利用者を受け入れている。

【通勤寮連携型グループホーム 葛の葉（女性4名）】

通過型の勉強の場であるグループホームと位置づけから、通勤寮職員が支援にあたった。プログラムや行事なども通勤寮と同等の支援をするということから、通勤寮利用者と同じように参加してもらうこととした。

食事に関して、通勤寮調理から支援員が葛の葉まで運び、または利用者が通勤寮まで食べに来る、朝食に関しては、利用者が通勤寮まで食べに来るという体制をとった。

昨年度まで入ってくれた朝の調理職員がいないため、完全な自力起床が求められることとなった。

年度初め、通勤寮2年目の女性利用者を1名移行させ、計4名の生活開始となった。

家庭から入寮してきた利用者は、精神的不安から、通所が出来なくなり、食事も摂らない日が続いた。能力的なこともあり、他利用者との関係性も難しく、今年度の葛の葉の体制上、本人にとって厳しくなると考慮し、世話人が常時いる別法人のグループホームへ年度途中で移行した。地域から入寮し、葛の葉3年目を迎える利用者は、新型コロナの影響で仕事も待機日が多くなり、次の生活の移行に関してもストレスを抱え、精神不安定となったが、無事に法人内のグループホームへ移行している。1月には家庭から1名受け入れをしている。以上のように、通勤寮2年・葛の葉1年計3年の利用をうたっていることから、通勤寮からの移行して1年でまた次の生活を考えなければいけなくなり、利用者も支援員も慌ただしい生活となる。さらに、通勤寮女性利用者の精神的不安定・幼さを考えると、2年で移行させるのは厳しい人も多く、通過型である葛の葉の利用者確保も容易ではないことが開設から3年で見えてきた。

通勤寮職員が支援することから、知った顔が支援することの安心感はあるが、新体制の中、自力起床など自立度を求められることとなり、利用者には負担が多くなったとも感じる。

通勤寮職員、奏かつしかのサビ管やグループホーム職員とも連携し、支援していく必要がある。

【ことの葉（女性3名）】

通勤寮から一人迎え入れたが、基本的に葛の葉を経由して、就労・生活の安定したメンバーで構成された自立度の高い寮になった。「一人暮らし」に目を向けられるような支援を心がけた。基本的には支援員一人を担当とした。

ミーティングを定期的実施し、思いを伝えること、認め合う事を考える場とした。
調理教室を月一回実施。また地域のボランティアさんをお願いし、調理教室も実施している。
楽しみながら調理を覚え、自立を目指すということから、利用者も自信をつけ、9月から月曜日は自分たちで朝食づくりができるようになった。
自分に気づける健康管理として、生理の期間だけではなく、体調の変化も記入できるような様式とした。
女性特有の精神的不安もあるので、精神科と連携をとるようにしている。

【ひと葉（女性3人）】

4月1日に開所。通勤寮卒寮生2名とことの葉から一名を受け入れた。
精神不安定さ、能力的に身辺等に課題があり、手厚い支援が必要な女性たちであるため、夜勤寮とした。夜勤は週1～2回だが、ひと葉、ことの葉の食事をひと葉で作ってもらうため、夕方に職員がいるような体制にし、安心できる環境体制をつくった。
定期的なミーティングと、大掃除、食事会などを実施し、生活に目を向けられるように支援してきた。それでも、携帯の使い方や異性問題が頻発し、支援としては手厚くする必要性を感じた。
役割分担として、掃除・米とぎなどもやってもらっているが、声かけ、代行が必要な寮である。
三人が同じ寮の仲間であることを意識し、相手を思いやれるような環境を整備する必要はある。

【ふた葉（男性4人）】

4月1日開所。通勤寮の卒寮生4名を受け入れた。13-21寮とし、比較的自立した男性たちである。調理職員を朝晩配置した。初めての少人数での生活で、それぞれの課題が目につき、小さな行き違いのトラブルになることもあるが、その都度ミーティングを実施し関係調整した。健康管理も課題となる利用者もあり、投薬・運動療法・医療との連携も必須となった。また不安定な利用者に関しては、通勤寮から継続してカウンセリングを実施しカウンセラーと連携をとった。
月一回の大掃除や食事会なども実施した。自分の生活に目をむけ、一人暮らしに向けて段階を踏んで成長できるように支援してきた。一名の利用者は目標であった車の免許を取得することができた。
通勤寮で学んできたことを継続して生かせるように利用者も意識している様子がうかがえる。

【防災訓練】

年二回、防災訓練を実施し、職員がいないときにどのような対応をしたら良いのかを意識できるように学んでもらった。夜勤者がいる時は良いが、いないときに、通勤寮職員が対応しなければいけないのが今後の課題となる。

今年度は中止となったが、地域の防災訓練にも積極的に参加して行きたい。

【個別支援計画】

サビ管を中心とし、年二回実施。利用者の課題や成長を感じられる個別支援計画になるよう意識した。

【保護者会や見学会】

コロナ禍であったため、実施できず。

【健康診断】

年一回、通勤寮の健康診断と一緒に実施。インフルエンザの予防接種も実施した。

【消毒の徹底】

コロナ流行の為、防火管理表の中に、消毒の項目を入れ、寮に入った際にはドアノブ等の消毒徹底に努めた。利用者も意識できるように、消毒液を常備、手洗い・マスクの徹底を声かけした。

【物件整備】

一軒家や古いマンションだと、住んでみて不具合が出ることもあり、不動産屋と相談しながら環境整備することが今年度は多かった。

利用者が安心して生活できるように今後も努めたい。

【メモリーの会】

会員数34名

行事を楽しみしている利用者たちも多く、コロナ禍で行事が中止になり、残念に思う利用者もいた。

役員・監事と相談し、行事に変えて「1000円ギフト券」を会員にプレゼントすることにした。

今後も活動継続できるようにしたい。

以上

2020年度 Craft(クラフト) 事業報告

全体

ベーカリーカフェ「Viser Polaire」の運営を軸として、パン製造、喫茶、清掃の3グループで活動を行った。

今年度も引き続きシニフィアン シニフィエ志賀シェフ、堀口珈琲小野塚氏に教示を仰ぎながら、地域に親しまれるベーカリーカフェとして積極的に活動を行う方針を立てていたが、新型コロナウイルス感染拡大による度重なる緊急事態宣言で「Viser Polaire」は、その都度イートイン中止を余儀なくされ、「かつくら祭」や東堀切町会主催の「親子ふれあい祭」など、様々な行事、販売会も軒並み取りやめになった。

しかしながら、パン通販サイトの活用など様々な工夫を凝らし出来る限りの販促活動を行い、収益については最低限の損失で免れている。

施設外就労等、事業計画に挙げていた外部的取り組みは感染拡大防止の為、頓挫してしまっていたが、清掃グループはコロナ渦の中、多数の利用者がタスカルカードを運用しつつ活き活きと活動できていた。

職員で検討を重ね、Craftの行動指針となる「ビジョン」、「ミッション」、「バリュー」「クレド」を策定。ベーカリーカフェ運営や利用者支援に対して、職員のどのような行動が望まれるかが明確になった。

「利用者こころえ」の内容説明を利用者に対して実施。グループごと、話し合いを数回に分け、わかりやすく説明している。

一般企業就労に関しては1名が、4年における取組みが実り、「株式会社ぱぱす」への入社が決まり、後に続く就職希望利用者にとっても、良い刺激となった。

日々の活動において、3密を避ける行動をとらざるを得ない為、朝礼や月一度の利用者集まり、イベントの中止から昼食に至るまで、様々な行動抑止と衛生についての徹底を図り、事業所内での感染は防ぐ事ができたが、先行きが不透明な状況に不安が広がる年度となった。

利用者支援重点目標

今年度も、作業の進捗状況や達成感を「見える化」するため、タスカルカードを利用して行った。グループ独自のルールや共通ルールを見直しやポイント3倍デーなど、利用者のモチベーションを維持するように努めた。自分でできるか判断し、作業の協力を受けたり、協力を求めたり、時間を意識しながら行う事等、自分の作業について責任を持ち一人一人が取り組んでいた。月1回表彰されることで、達成感を得ることや次は頑張ろうという意欲につながった。終礼では、仲間の良かったところを発表してもらった。美点凝視をしたことを伝え合うことで、お互いの存在を認め合う環境づくりができた。

個別では、個別支援計画を反映し、目標に向けてのチェックシートを作成し、毎日目標に意識して取り組めるように工夫を行った。

健康面では、健康維持、リラックス効果、協調性を養うため、月に1回ヨガ講座を開催した。また毎日、安全に動けるためにラジオ体操も実施。利用者の楽しみの一つとなった。

今年度は、6名の利用者が入所し、1名の利用者が企業就労のため退所した。

1名の利用者については、長期休みが続き、家庭訪問を繰り返したが、服薬の副作用の関係で、現在も入院中である。1名の利用者についても、新型コロナウイルス感染拡大予防のために町内会や店舗のイベントがなくなり、通所意欲が下がってしまい、生活リズムが乱れ、休みが続いている。職員同行の際は、対話の場を設けて通所再開できるようGH職員との連携をとっている。

年間売上

年間売上：10,501,180円(3/31現在) (年間売上目標：14,700,000円)

(内訳：パン：8,714,935円、喫茶：428,952円 清掃：1,357,293円)

喫茶・販売グループ

(年間売上)

実績：パン：8,714,935円、喫茶：428,952円 計9,143,887円(3/31現在)

目標：127,920,000円 (達成度：71.14%)

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、緊急事態宣言発令中は、イートインの中止の判断や時短営業し、思うような営業活動ができず売り上げ目標の未達成や昨年度よりも売り上げが減少してしまう結果となった。

とても苦しい状況ではあったが、SBBのセット数の増加、保育園からの3件の新規注文、パンお取り寄せサイト「rebake」にてパンセットの通信販売の開始、季節ごとにパンセットの販売、店舗内で実施できるイベントの実施等、集客への最大限の努力は出来た。

土曜日はイートインがなくても50人前後のお客様が訪れている日もあった。

3周年記念感謝祭は、緊急事態宣言発令のため延期し、5/28～30にパンセット販売のみ行ったが、沢山の皆様にお越しただけた。

また、お客様からも要望が出ていたシュトーレンをクリスマスの時期に販売し、好評を得た。

3月はNHK BSプレミアムで放送された番組が良い宣伝効果を発揮し、平日でも土曜日に近い売り上げを上げることができた。

しかし、外部販売は新型コロナウイルス感染拡大防止により、ほとんど中止となった。

広報活動では、SNSについては毎日記事のアップを行い、季節の商品、イベントや店舗の様子を宣伝し、集客に努めた。昨年度から利用しているホットペッパーやHPについては、集客や売上に反映が見込めなかったため、今年度で契約を終了する予定である。

安心して店舗を訪れてもらえるように、消毒液やパーテーションの設置、入店時の人数制限、商品提供のオペレーション等、感染防止対策を講じた。

作業面では、引き続きタスカルカードを導入し、利用者自ら自分がやるべき作業を確認して、仕事に取り組んでもらった。日々の積み重ねにより、利用者自ら作業の準備や袋詰め、接客も率先して行い、お互いに声を掛け合い作業ができるようになってきた。イートイン中止の時期が長く、接客業務の機会が少なくなったが、商品包装の作業が多くなり、商品を丁寧に包装する意識も生まれた。接客用語や言葉遣いなど店舗運営に必要なマナーに関しても、朝礼や作業内で重要性を適宜利用者へ伝え実践してもらった。イートイン再開前には接客講習を行い、ドリンク運びやお客様への声掛けを練習する時間を設けた。接客用語も昨年よりかなり意識して取り組むことができた。

来年度も引き続きお客様に安心して店舗を利用して貰える様に、利用者・職員ともに感染防止対策をしっかりと行いながら、お店作りや接客の質の向上に努めたい。

イベント

5/28(木)～30(土)：3周年記念感謝祭

7/1(水)～7/7(火)：七夕イベント(抽選会)

8/29(土)：夏休みじゃんけん大会

10/27(火)～31(土)：ハロウィンイベント(あめつかみ大会)

12/12(土)～24(土)：シュトーレン&クリスマスパンセット

1/7(木)～9(土)：新春初売り(福袋販売・おみくじ大会)

2/8(土)～14(金)：バレンタインイベント(チョコレートプレゼント、パンセット販売)

2/12(火)～20(土)：Jaぱんカップ(店舗販売のみ)

外部販売

10/24(土)：くすのき祭(売上：6,900円)

パン製造

新型コロナウイルス感染拡大防止のため営業に制限があり、年度前期はその制限に合わせた生産量となり、商品のメニューの充実を図ることができなかった。そのため、10月よりパンお取り寄せサイト「rebake(リベイク)」を始めた。平均月4名程のお客様に発送を行えた。また8月に3件の新規の保育園注文が入り売上維持に努めた。

月1回志賀シェフの技術指導を受け、クリスマスにはシュトーレンの販売や新しいパン生地の挑戦もでき、年度後期では販売につなげることができた。そして技術安定、向上に努

めることができました。また季節イベントのセット販売や利用者や職員よりアイデアを募ったり旬の食材を取り入れたりして、積極的に焼き菓子も販売することができました。

原材料高騰は現在も続いているため、価格設定の見直しを随時行い、利益率向上を図った結果、原価率訳 26%に抑えることができました。

日産化学株式会社より東京善意銀行を通じて助成を受け、急速冷凍庫を購入した。作業効率も上がり品質も良い状態でお客様に提供できるため、今後の販路拡大に期待ができる。

保育園に納品するパンの商品を間違えて製造してしまった件について、また保育園に納品したパンに汚れが付着してしまった件について、それぞれ報告書をあげ対策を講じた。

利用者支援については、引き続き利用者自身で行えるように作業提供を工夫した。利用者が行う作業についてマニュアルを作り、皆で共有をした。より自立した作業を行えた。

自分の作業のことだけでなく他の人の作業の進み具合を考え、自分から協力を申し出て仕事に取り組みたり、作業配分を考えて進めることができた。

だが、少しずつ製造量も増え利用者が担う作業も増えてきて、許容範囲を超えてしまった点もあり、今後の作業の仕組みを検討する必要があると感じた。

引き続き、企業就労を意識したビジネスマナー等の取り組み、その中でも利用者一人ひとりに合った作業提供や環境作りに努力していく。

清掃活動、受注作業

〈年間売上〉

実績：1,357,293 円 (3/31 現在) 目標：1,908,000 円 (達成度：71.14%)

売り上げに関しては前年度からは微増となったが、事業計画で計画していた施設外就労が行えなかった為、その部分の収入見込み分の減収で目標未達となった。前年度に引き続き会社現場に近い環境での活動提供を行っていった。他者の仕事や予定外の仕事を積極的に行う利用者も数名出てきたり、チームでの終礼時にお互いの良かった部分を評価し合う取り組みが、習慣化でき、チームとして良いモチベーション維持に繋がっていた。

また、パソコン入力作業や事務作業等、清掃以外の作業も少しずつ取り入れ、就労を目指す利用者を中心に作業経験や清掃以外の作業能力の開拓に努めた。

年度途中に随時新規利用者が入所し、清掃班の利用者数も増加した為、作業の定着化や手順の確認の為に、各清掃作業のチェックシートを作成し導入した。チェックシートを確認しながら作業を進める事で、利用者一人でもある程度清掃作業が進める事が出来る様になった。また、利用者数が増えた事に対し、作業量の充足が維持出来る様に、軽作業も含め作業の切り出し、各利用者の体調や状態に合わせての作業提供等、環境設定を行った。

利用者支援では引き続き個別支援計画をベースに、利用者個々の特性に合わせての活動の提供や、希望する将来像に対しての活動提供を行った。また、定期的に利用者とは対話する機会を持ち、年度末の3月に清掃班の利用者全員に対して個別面談を実施し、今年度の活動

状況や、達成状況、次年度に向けての考え等の聞き取りを行い、新年度の活動に対する参考とさせて貰った。

受注作業に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止により作業終了となった受注作業があった一方、法人内の他事業所（シャイン・つむぎ）の紹介により、新規での受注作業の請負が出来た。また、新規開拓としてネスレ日本からの受注作業として、通販商品の宅配の作業を新規受注し、地域交流や社会貢献活動の一環としても行う事が出来た。

次年度は、今後の発展や事業拡大に向けてベースの構築や現状の整備、維持を目標とし、利用者個々の自活力を引き出し向上に取り組んでいきたい。

令和2年度受注作業状況

- 5月 スペース24（コインパーキング清掃）終了
- 5月 清水ハトメ（ハトメ部品の組み上げ、箱詰め）開始
- 12月 日本ネスレ（通販商品の宅配『MACHI ECO便』）開始

一般企業就労支援活動

今年度は4月の後半から8月いっぱいまで、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外部での就労支援活動を自粛し、9月から本格的に活動を再開した。また、施設外就労の開拓及び実施は中止としている。

前年度から就労活動を行っていた利用者に対し、次のステップとして外部実習の機会を増やし、就職に結び付く様な活動や、就職後の就労継続に向けての活動を行った。その結果、1名の利用者の一般企業の就職が決まった。

新しい試みとして、『東京しごと財団』のコーディネーター面談を実施し、実習受け入れ企業の情報収集、『東京しごと財団』の職場体験実習面談会に参加、企業説明会の参加等、情報入手経路を増やし、より就労活動の機会が増える様に努めた。その他1名の利用者も今年度実習を複数回実施し、令和3年4月から一般企業に採用予定となっている。

また、就労活動を新しく開始する利用者に対し、葛飾区障害者就労支援センター主催の『区役所実習』の参加をし、外部実習を経験していく場を設定した。

次年度は新規就労活動に加え、就職者のアフターフォローも行っていく。

フォレストの就労担当者との情報交換会を令和3年3月から開始し、次年度も継続して就労支援の面で連携を図っていく。

実績

- 4月 東京都ビジネスサービス株式会社にて事前面談
（ベネリック株式会社にて、ムーミンカフェのパン製造業務の実習）（T・Mさん）

- 5月
6月
7月
8月
9月
10月 一般社団法人ルブランサポート見学 (M・Sさん)
一般社団法人ルブランサポート見学 (M・Aさん)
公益財団法人東京しごと財団 職場体験実習コーディネーター面談 (T・Mさん)
11月 一般社団法人ルブランサポート実習 (M・Aさん)
公益財団法人東京しごと財団 職場体験実習面談会 (T・Mさん)
株式会社ENEOS フロンティア 実習前職場見学 (T・Mさん)
AIG ハーモニー株式会社実習 (T・Mさん)
株式会社ぱぱす会社 会社説明会 (M・Sさん)
区役所実習 (S・Iさん)
12月 AIG ハーモニー株式会社実習 (T・Mさん)
NEC フレンドリースタフ株式会社 実習前面談及び会社見学 (T・Mさん)
パーソルサンクス株式会社 実習前面談及び会社見学 (T・Mさん)
株式会社クボタスタッフ 会社説明会 (T・Mさん)
株式会社ぱぱす どちらぐぱぱす東立石店実習 (M・Sさん)
1月 NEC フレンドリースタフ株式会社実習 (T・Mさん)
AIG ハーモニー株式会社実習 (T・Mさん)
株式会社ぱぱす どちらぐぱぱす東立石店 最終面接 (M・Sさん)
区役所実習 (S・Iさん)
2月 AIG ハーモニー株式会社実習 (T・Mさん)
区役所実習 (S・Iさん)
株式会社ぱぱす どちらぐぱぱす東立石店 採用、入社 (M・Sさん)
3月 AIG ハーモニー株式会社 最終面接 (T・Mさん)
区役所実習 (S・Iさん)
令和3年度
4月 AIG ハーモニー株式会社 採用・入社予定 (T・Mさん)

行事計画

新型コロナウイルス感染拡大防止の為の、予定していた行事は中止となった。

5月28日・29日・30日に Viser Polaire3周年記念を企画し、パンセットの販売を行っている。

12月のCraft納会は規模を縮小して実施。

防災

毎月防火状況自主点検表の作成を行い、令和3年3月に避難訓練を実施。また、葛飾通勤寮・奏かつしか・Craft職員合同の防災委員会を実施し、BCP計画策定及び修正を行った。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応マニュアルの策定も行った。

生活支援

- ・作業を通し、返事や挨拶、身だしなみを整えるなど社会マナー習得の支援を行った。
- ・グループホームや家庭と連携し、利用者の健康や生活状況の把握を行った。
- ・食生活に関する支援については、今年度は実施出来なかった。

健康管理

- ・7月に利用者向けの定期健康診断を実施した。
- ・12月に希望者向けにインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・月1回、検便を全利用者・職員を対象に実施した。
- ・今年度は健康講座については実施出来なかった。
- ・作業前のウォーミングアップとして、毎朝朝礼前にラジオ体操を実施している。
- ・定期的な運動の機会を確保する為に、月1回ヨガ教室を行った。

家族・グループホームとの連携

連絡帳の活用、必要に応じて電話連絡をして家族やグループホーム職員との連携を図った。

欠勤が続く利用者に関しては、家庭訪問や個別対応を実施。また、ケース会議や定期的な話し合いを行うなど情報共有と支援の統一を行った。

職員研修

11月30日、12月1日・2日	リーダーシップ集中講座	中島
11月26日・27日	サービス管理責任者 基礎研修	玉木
1月27日	職員内部研修 権利擁護・虐待防止	全職員向け

2020年度 かつしかセンター事業報告

2020年度3月末実績 定員279名 現員257名
ユニット数53カ所 サテライト10カ所

入寮

・自宅や単身生活から3名

*虐待ケースの為急遽利用開始となった・・・1件

単身での生活が限界となった為利用となったケース・・・2件

退寮

・他事業所GHへ1名

・通勤寮へ1名

・高齢者施設へ1名

・単身生活や自宅復帰3名

*病気からくる身体機能低下により今利用しているグループホームでは生活が困難になり、高齢者施設へ移ったケースが1件有った。

*GHでの支援が上手く行かず、単身生活に移行し部分的な支援を継続しているケースが1件有る。

GH

・欠員の解消が出来なかった。

・利用者の高齢化や重度化に対して、既存のままのハードと職員配置では支援し辛い場面が増えて来た。通所先の協力やヘルパーを独自に配置しているおかげで、何とか支援が出来ている。

余暇

・新型コロナウイルス感染症の影響で、十分には行えなかった。

健康

・インフルエンザ予防接種を予定通り実施した。

・生活習慣病（高血圧や糖尿病）に罹る利用者が年々増加している。食事面や運動等の対処も必要となり、宅配弁当の利用やウォーキング等を実施した。

・複数の重篤な病気を抱えた利用者が増え、医療機関との連携や生活の場所の見直し等の対応に苦慮した。

その他

- ・居室清掃については、やり切れていない部分の内、共有部分は奥戸福祉館へ委託、各居室は清掃専門職員や担当職員で行った。
- ・職員向け外部研修は、常勤職員の 1/4 程度の職員が受けられた。
- ・各ユニット年 2 回の防災訓練を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症により、ロックダウンを 2 回行った。利用者の状況やGHの形態等に応じてその都度対応を変えねばならなかった。

2020年度 サザンクロスかつしか事業報告

1, 支援方針

- (1) 幸せの形は十人十色。個人としっかり向き合い、未来につながる支援をします。
- (2) ライフステージに合わせた支援を提供します。
- (3) 利用者も職員も人生を謳歌し、幸せになります。
- (4) 安心、安全、清潔な環境を作ります。
- (5) 地域に愛されるグループホームを目指します。
- (6) 職員間で情報を共有し、チーム一丸となって働きます。

2, 今年度取り組む課題

(1) 個別支援計画の充実

- ① ライフステージ、特に、高齢期、余生、終末期を意識した個別支援計画の作成します。
- ② 軽度利用者の個別支援計画を充実するため、書式含め、作成方法を検討します。
- ③ ダウン症、早期認知症対策として、頭部MRI検査を引き続き、働きかけます。
 - ・ 正常時の動きやADLが確認できる動画を残せるように、家族と調整します。

個別支援計画は、高齢期ばかりでなく、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、大幅な変更を強いられた。外出関係が軒並み、キャンセルになってしまい、代替のプログラムも充実にはほど遠い内容になってしまった。来年度は、コロナ禍、コロナ後の両方を見据えた計画を模索する。軽度利用者の個別支援計画の書式は、来年度から新しい書式を使うことになった。ダウン症の早期認知症対策は、実施することが出来なかった。

(2) 洪水に対する、防災対策を行います。

- ① 洪水に備え、食料の備蓄及び、必要な物品を準備します。
- ② 洪水時の避難計画を、職員及び利用者に周知します。
- ③ 洪水後のBCP(事業継続計画)を作成します。

洪水時の食料の備蓄及び必要物品を購入、あらためて、洪水時の避難計画を更新している。避難計画の利用者の周知は出来ていない。洪水後のBCP(事業継続計画)に関しては、単独事業所での対応は不可能だと判断しているので、引き続き、作成に取り組んでいく。

(3) 支援者の労働環境を整えます。

- ① 介護人確保が困難のため、緊急一時保護について、葛飾区と交渉します。
- ② 残業時間軽減の努力及び、適正支給の努力をします。
 - ・ 時間パートを積極的採用し、明けの確保と単純作業の非常勤可を検討、実施します。

緊急一時保護の葛飾区からの回答は得られなかった。自立支援協議会の地域支援部会の中で、引き続き、継続の困難性を伝えていく。業務整理の中で、残業が減った部分もあるが、コロナ対応の残業が多く出てしまった。時間パートについては、引き続き検討するが、来年度は、非常勤夜間職員も含め検討して行く。

(4) 収入、経営の安定化を模索します。

- ① 区分が付いていない利用者に関しては、区分申請を行います。
- ② 明らかに、区分決定に際し、現状と差異がある場合には、不服申し立てをします。
- ③ 福祉専門職配置加算(I)を取れるように、環境を整備します。(1日5単位→7単位)
 - ・ 事業所主体で、国家資格を取れるように環境を整えます。

区分申請をして、区分のない利用者にも、徐々に区分が付いている。しかし、全体としては、区分見直しの際、上がることも下がることもあり、印象としては、適性化している印象がある。毎年、国家資格の取得が見られ、配置加算の条件が整いつつある。

(5) サービス管理責任者会議の機能を強化します(東京都、法人を下支えする)。

① 主任業務の明確にして、次の人材を育てます。

<主任・チームリーダー業務(サービス管理責任者業務)>

- 1) 個別支援・個別会計・食費・光熱水費・日用品費の統括
- 2) 個別支援計画の作成(統括として)
- 3) 勤務表の作成、別支援チームとの連絡調整
- 4) 対外機関(職場・日中活動の場・医療機関・実施機関他)との調整(統括として)
- 5) 家族との調整(統括として)
- 6) 支援スタッフへ指導・助言

② サザンクロスかつしか内部研修を主催します。

③ サビ管研修、GH運営協議会研修にファシリテーターを派遣します。

④ 都コーディネーター事業の事務局機能及びコーディネート機能を持ちます。

⑤ 新人研修を法人と共催し、事業所内で主任研修を検討します。

⑥ 全体会議後、内部研修を主催します。

将来、主任を担う、キャップをしている支援員が育って来ている。全体の内部研修は出来なかった。チームに分散しての同じテーマ(権利擁護)の研修は、全体でやるよりも理解が深まったと感想が出て来ている。研修等にファシリテーターは派遣できたが、都コーディネーター事業との連携は実施できなかった。

<全体会議の予定> 開催月は、原則第4木曜日で実施。

月日	時間	内容
4月23日(木)	10:30~16:00	全体会議/内部監査
5月28日(木)	13:00~14:30	内部研修<1>
6月25日(木)	13:00~14:30	内部研修<2>
7月30日(木)	13:00~14:30	内部研修<3>
8月27日(木)	各チーム調整	中間モニタリング検討日①
9月24日(木)	各チーム調整	中間モニタリング検討日②
10月22日(木)	10:30~16:00	全体会議/内部監査
11月26日(木)	各チーム調整	各チーム調整
12月24日(木)	各チーム調整	各チーム調整
1月30日(木)	各チーム調整	総括・個別支援計画検討日①
2月27日(木)	各チーム調整	総括・個別支援計画検討日②
3月26日(木)	13:00~14:30	全体会議(サザンクロス事業計画)

⑦ サービス管理責任者会議

各チーム間の連絡調整、困難事例、懸案事項の検討、リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会を兼ねる。所長、各チーム主任およびチームリーダーが出席。月1回、原則第2水曜日実施。

月日	時間	月日	時間
4月 8日(水)	13:30~14:30	10月 7日(水)	13:30~14:30
5月13日(水)	13:30~14:30	11月11日(水)	13:30~14:30
6月10日(水)	13:30~14:30	12月 9日(水)	13:30~14:30
7月 8日(水)	13:30~14:30	1月 6日(水)	13:30~14:30
8月 5日(水)	13:30~14:30	2月 3日(水)	13:30~14:30
9月 9日(水)	13:30~14:30	3月 3日(水)	13:30~14:30

⑧ 支援会議

各支援チームで、月1~2回の支援会議をおこなう。リスクマネジメントの検証もおこなう。周知検討事項の他、個別支援計画の策定、検討の場とする。

(6) 預かり金の管理システムの充実及び構築

- ① 通帳・印鑑の主任・サビ管管理
- ② 個別会計管理ケースの施設化
- ③ チーム内監査の実施(年2回)
- ④ 内部監査の実施(年2回)

コロナの対応で、変更は多数発生したが、会議を行なうことが出来た。内部監査もチームごと編成にし、実施することが出来た。預り金も規定通り、管理することが出来ている。

4, 研修

(1) 内部研修

	日時	内容	担当
①	5月28日(木)13:30~14:30	権利擁護の視点から(総論)	久保・星
②	6月25日(木)13:30~14:30	権利擁護の視点から(自閉症)	久保・川瀬・三潁
③	7月30日(木)13:30~14:30	権利擁護の視点から(高齢)	久保・野村・宮川

(2) 外部研修※詳細別紙参照

- ① SDS(Self Development System 自己啓発援助制度)を採用し、自発的な研修参加。
- ② サービス管理責任者会議からの指名。
- ③ 計画的な施設見学

(3) 資格取得研修

- ① 移動支援従事者
- ② 行動援護従事者
- ③ 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・認定心理士

<参加予定研修>

1	自閉症支援入門研修会	15	障害者のためのレクリエーション支援者養成研修会
2	全国知的障害関係施設長等会議	16	障害のある人を支援する防災研修会
3	全国自閉症者施設協議会研究大会	17	排泄支援の知識と技術の基礎講座
4	全国グループホーム等研修会	18	ダウン症支援セミナー
5	アメニティネットワークフォーラム	19	日本ダウン症会議
6	日本グループホーム学会全国大会	20	てんかん基礎講座
7	自閉症セミナー 認知発達治療の理論と実践	21	ターミナルケア基礎研修
8	自閉症セミナー	22	高齢知的障害者支援のスタンダードを目指して
9	日本自閉症スペクトラム学会研究大会	23	社会福祉士実習指導者講習会
10	全国知的障害福祉関係職員研究大会	24	行動援護従事者養成研修
11	摂食指導(基礎・実習)講習会	25	移動支援従事者養成研修
12	リスクマネジャー養成研修会	26	全身性障害者移動介護従事者養成研修
13	「個別支援計画」作成および運用に関する研修会	27	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
14	包括的暴力防止プログラム(CVPPP)	28	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

(4) OJT研修

- ① 新人職員に、目指すべき目標を提示し、終了時に評価する。OJT担当を指名、3ヶ月間設定し、主に最初の1ヶ月間を重点的に実施します。
- ② 始めて会計を持つ際に、会計のOJT担当を指名し、1ヵ月ごとに会計を締めながら、習熟度を確認する。主任・チームリーダー・所長の許可が出たら、一人で会計が行える形にします。

外部研修、見学研修は、概ね、中止や延期になったが、オンライン研修になり、実施されたものは、参加している。内部研修は、チームに分散して、全2回に変更して実施している。

5, 法人事業・委員会担当

(1) 法人内事業所全体

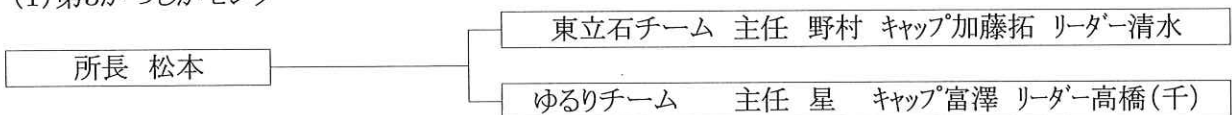
- ① 労働衛生安全委員会 寺田
- ② かわら版編集委員会 尾井
- ③ PC委員会 鈴木雄・正能
- ④ 給与検討委員会 野村

(2) 事業所内業務担当

- ① ハラスメント委員会 野村・中村久
- ② 虐待防止委員会 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ③ リスクマネジメント委員会 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ④ 苦情解決委員会 久保 苦情窓口 (清水・宮川)
- ⑤ 防災委員会 竹村・大山・小峰・遠野
- ⑥ 土田病院 大山
- ⑦ 健康診断・予防接種 後藤・中村杏・大山・堀内
- ⑧ 全体会議録 吉澤・堀越
- ⑨ 緊急一時保護コーディネート 天野
- ⑩ 内部研修 サービス管理責任者会議参加者兼務
- ⑪ 外部研修 松本(亜)
- ⑫ 余暇支援担当
 - 1)ランナーズクラブ 鈴木誉・岡田
 - 2)ソフトボールクラブ 井川・山崎
 - 3)英会話クラブ 後藤
 - 4)アートクラブ 大島

6, 支援体制

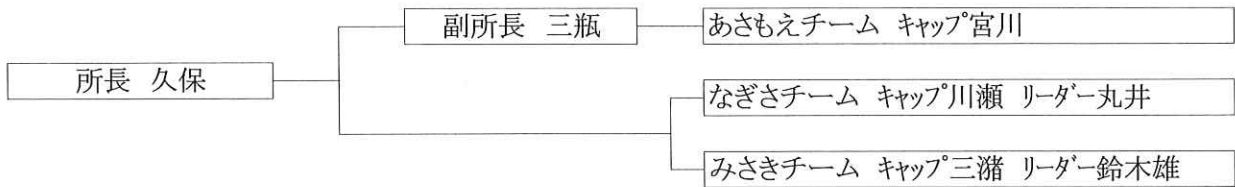
(1) 第3かつしかセンター



東立石チーム		主任	野村	キャップ	加藤(拓)	リーダー	清水
支援スタッフ	正能 鈴木(誉)	初谷	中村杏	遠野	加藤(美)	本橋	
担当寮	定員	担当	調理職員他				
第2東立石成年寮	6	野村	(調理)				
東立石成年寮	6	正能	(調理) 西				
第三原町成年寮	5	加藤拓/吉澤	(調理) 杉浦				
モア	2	中村杏	(調理) 後藤				
スワン	4	初谷	(調理) 佐藤				

ゆるりチーム		主任	星	キャップ	富澤	リーダー	高橋千
支援スタッフ	青柳 吉澤	後藤 井上	尾井 寛	小峰 鈴木(麻)	田口	大野	
担当寮	定員	担当	調理職員他				
ゆるり	10	星	(調理) 吉邨 (早出・調理) 入江 (清掃) 佐藤				
ハート	4	高橋/吉澤	(調理) 吉羽				
チロル	5	小峰/田口	(調理) 鎌田				
くすのき	5	青柳	(調理) 戸國				
かしの木	3	富澤					

(2) 第4かつしかセンター



あさもえチーム		副所長 三瓶		キャップ 宮川		
支援スタッフ	矢野 小河	大山 岡田	天野 松田	山田(遼) 堀越	中村久 鈴木健	井川
担当寮	定員	担当	調理職員他			
あさぎ	7	三瓶	(調理)	稲上・関根・鈴木		
もえぎ	5	三瓶	(清掃)	大貫		
第七原町成年寮	4	山田遼	(調理)	穂刈		
ラブ	6	宮川/小河/岡田	(調理)	保富		
こい	4	堀越/鈴木	(委託)	才津		

なぎさチーム		キャップ 川瀬		リーダー 丸井		
支援スタッフ	加藤法	山崎	井上	大島	竹村	
担当寮	定員	担当	調理職員他			
なぎさ	7	川瀬	(調理)	川島	(清掃)	大貫
リーバーサイド	7	山崎	(調理)	柏原・高木	(清掃)	大貫

みさきチーム		キャップ 三瀨		リーダー 鈴木(雄)		
支援スタッフ	小椋	堀内	山坂	杉山	寺田	
担当寮	定員	担当	調理職員他			
みさき	7	三瀨	早田			
オリザ	4	山坂	小形・波立			

以上

2020年度 ドロップ

(居宅介護・移動支援・行動援護)

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

事業所活動

今年度立てた目標をもとに実施している。

ヘルパーの質の向上として観察力を高め、利用者の身体面、精神状態、あらゆる点を総合的に観察し、日々の実践の中で自己の専門性及び、コミュニケーションの向上や障害特性の理解を深める研修に参加し支援を行うと同時に引継ぎミスを防ぐため、書面・メールを含め、対面や電話にて再度確認を行い、業務に遂行した。在宅の利用者のニーズに合わせた支援については、ご本人やご家族の情報を幅広く収集し分析を行い、今後必要となるQOL向上のためのプログラムを実践し、楽しく安全に外出できるよう努めた。

GHの利用者の余暇支援については連携を図り、ガイド時のご本人の様子や希望外出先などをGHと情報共有を行い、より良い支援に繋がられるよう努めている。

居宅介護・行動援護の利用者については定期的にモニタリング実施し、支援計画を作成、定期的なモニタリングや支援計画を行うことにより、より良い支援を行えるよう遂行している。

利用者の余暇支援の充実を図るためにコロナ過の中、どのような支援が利用者のストレス発散や体力面や健康維持に繋がり、安心して利用して頂けるようにするにはどうしたら良いかをヘルパー一同で協議を行い、何処かに出掛けるだけでなく、ご本人やご家族の心に寄り添い傾聴する事による支援を行うよう心掛けた。

苦情解決

第三者委員会・所轄等に報告すべき事項はなし。

事故（ヒヤリハット）に関する事案

ヒヤリハット内容	2020年度
服薬に関する事案	0件
怪我に関する事案	0件
その他	0件

研修

- ・障害福祉の理解研修・精神障害の理解と支援研修：インターネット視聴11月：鶴岡 高橋 浅野
- ・強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】：インターネット視聴2月：鶴岡

会議

職員会議を月に一回の頻度で開催し情報共有や協議できる場を設け、会議の効率化、スムーズに議題に入れるよう論点・課題も事前に共有した。

緊急一時保護

兼務の中で緊急一時担当スタッフと情報共有を図り、ドロップ勤務内での対応可能な限り調整しながら業務担い、連携に努めた。

2020年度 はんもつく (自立生活援助)

事業報告

社会福祉法人原町成年寮

※活動報告

今年度の実績状況は、1名（男性）であったが、原則一年という期間設定がある中で、令和2年5月1日より支援を開始し、令和3年4月30日終了の期限での支援を行った。今回のケースは、法人内の葛飾通勤寮を卒業し、グループホームを経てサテライト型グループホームを経由した利用者で、一般就労をしている方であるが、一人暮らしに移行するにあたっての支援を一年間行っている。

事業所の方針通り、3ヶ月に1度のモニタリングを実施し、有期間内で単身生活へ移行できるよう、支援の構築を行った。単身生活を見据えて、金銭管理や通帳管理も本人管理となることから、光熱水費の支払いの仕方、食生活を含めた健康管理等、具体的に実践する支援を行ってきたが、一般就労をしていることから、職場への理解を深め、単身生活後の協力体制作りを行い、職場とも連携する中で現在も就労継続が出来、安定している。

支援の方法としては、定期訪問の他、メールなどによる常時連絡体制を取る中で環境整備を行い、随時訪問と単身生活移行に伴った支援を積み重ね、現在は自立した生活を行っているが、困った時は現在も担当者への連絡は続いていることから、相談等の必要に応じた支援は継続している。今後もニーズに合わせたサービスの提供を心掛けたい。

※管理運営

法人内委員会や研修においては、居宅介護事業ドロップと相談支援事業系でんわとの兼務である事業という状況もあり、引き続き連動性を図りながら業務の遂行に努めた。同時に対象者は法人内グループホーム利用を経る中でのサービスの提供を行う流れにより、グループホーム担当者とも連携を図りながら、必要な支援の環境を整備した。

2020年度 糸でんわ

(指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業)

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

※実績の報告

2020年度の実績報告は計画相談 336 件、モニタリング 640 件の導入を行っている。
月毎の数は下記の表の通りであるが、月毎での件数が異なるため、段取りを行いながら遂行することに努めた。計画相談に関しては、利用するサービスに関しての新規利用やサービスの変更に対しての把握に努めながら、更新に関しても書類作成の不備がないよう、計画的に整備を行った。アセスメントについても丁寧な形で整えられるよう努め、モニタリングに関しては、利用者を含めて聞き取りを重視し、整える形で遂行した

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談	30	16	95	22	16	26	18	18	24	15	14	42
モニタリング	29	36	57	44	47	66	34	33	140	48	41	65

今後も月によって件数の片寄りが予測されるため、段取りを含め進めていく中で把握に努めていく。

※社会福祉士等現場実習

社会福祉士等現場実習については学校等の都合もあり、下記の通り 2 名の
実習生の受け入れを行った。今年度はドロップとの連携を行っている。

所属	性別	実習期間	窓口担当
社会福祉事業大学	女性	令和2年10月8日～10月18日	通勤寮
東京家政大学	女性	令和2年8月5日～9月17日	糸でんわ

※研修

昨年度は強度行動障害（基礎・実践）研修の受講・修了は 1 名だったため、今年度は 3 名
受講・修了したことにより 4 名に増員している。来年以降も随時申し込みを行っていく。
その他の研修として、葛飾区主催の葛飾区相談支援専門員研修会については研修の主催の派遣
を含め年間通して参加を行った。

2020年度 奥戸福祉館 事業報告

I 運営全般

今年度は生活介護事業所が36名就労継続B型事業所が24名の合計60名でスタートし9月に1名11月にそれぞれ1名ずつ入所、2月末で1名3月末で1名退所となり生活介護が35名就労継続B型が25名の60名で活動を行った。

コロナの感染対策防止のため4月5月の福祉館の通所自粛や時差通所を行い、やまもも祭等の行事は中止になり今まで普通にできた活動ができない1年だった。その中でもリモートで古希還暦を祝い、スノーピーミュージアム外出、白さぎ集会所でクリスマス忘年会を開き感染対策を講じた上でできる範囲の行事を行った。

通所自粛中に他事業所、グループホームの日中支援に職員が参加することで他事業所の活動を知ることができ又、自粛中に家庭に電話連絡を毎日入れ普段話す機会がない在宅利用者の家族と話せて有意義だった。来年度も他事業所との交流や学習の場を持てるよう取り組みたい。

緊急事態宣言発令にあわせて立石図書館でのリサイクルショップと喫茶店事業の営業を停止し売り上げは大きく減少したがそれ以外では安定して運営できた。オリーブを中継拠点とすることや散歩の取り組みを行い利用者が外へ行く機会が増えた。実習という形でゆず屋タッセルを多くの利用者が体験することができた。

老人ホームでの施設外就労のスマイルホームの清掃活動はコロナの為1年間休止となってしまった。来年度も再開できるかは不透明である。グループホーム清掃活動は安定維持できた。

就労B型事業所では休日の販売活動がすべて中止になり売り上げは減少したが保育園の給食パン納品と平日販売活動を行うことができた。2、3月に就労支援センターの協力による区職員向けのシフォンケーキの注文販売が好評だった。

利用者関係では家庭の事情1名と11月に入館したが安定通所が難しく1名が退所となった。

防災意識を高める取り組みの外出や福祉館改修の検討はできなかった。

コロナ感染対策を講じてきたが利用者1人が陽性反応となり後遺症で長期休みとなってしまった。しかしクラスター化せずに感染を抑えることができた。

コロナの感染対策で活動を制限したことで活動内容が余裕あるものになった。今まで奥戸福祉館は、働くこと、作業を中心に進んできたが1度振り返る良い機会になった。

来年度はコロナと共存しながら利用者の高齢、障害の重度化健康対策等の課題の解決とやりがいのある作業の提供のバランスを考えていきたい。保護者の高齢化に伴う家族支援も増加していく為引き続き他の関係機関と連携を取っていきたい。

II 利用者支援

I 事業活動

奥戸福祉館全体平均工賃 18,714 円 (26,492 円) ()は昨年度

就労継続B型事業所 月平均工賃 26,115円 (37,122円)

<パンチーム>

今年度は年度当初より、新型コロナウイルスの影響を受け、納品、販売活動が望んだようにできない一年だった。4月より徐々に保育園への納品は無くなっていき、5月には緊急事態宣言によりほとんどの納品が無くなった。販売活動も、高齢者施設での販売は無くなり、また大手スーパーの販売も自粛し、一時期販売活動を見合わせていた。また休日販売は今年一度も開かれなかった。そのため、大きく売り上げが落ちることとなった。

年度終わり現在では、一部の販売先を除き通常通り再開。保育園への納品も元通りになり、昨年までの関係により利用者への作業提供、安定した収入を得ることが出来た。来年度もこの関係は続けていきたい。

利用者の高齢化対策については日中に散歩を行ったり、毎日の作業終わりにラジオ体操を行ったりと体を動かす活動をしたが、具体的な作業提供の仕方、場所の配慮等は進めていくことが出来なかった。一名の利用者は加齢の影響を大きく受けている様子もあり、障害だけでなく高齢者支援の知識についても必要であると感じられた一年だった。

地域交流の一環でのパン体験を今年行わなかったが、子ども食堂への寄付を始めることにより、地域貢献を行うことができた。

異物混入の事故報告は今年度は無かったが、表示間違いの事故が数件あった。来年度に向けて、改正食品衛生法によりHACCP対応を行うこととなる。HACCPは、リスク管理を行うためこのような事故の原因を追究し、また未然に防いでいくこととなる。来年度はこのような事故報告が無いようにしていきたい。

【総売上：14,374,506円】 (18,761,239円)

※内訳 納品：11,799,743円

保育園：5,977,977円

SBB：3,473,000円

シフォンケーキ：387,580円(2,3月のみ)

販売：2,574,763円 (休日販売の実績はなし)

(2) 生活介護事業所 ◇月平均工賃 13,515 円 (19,645 円)

<清掃チーム>

「働く生活介護」を今年度も引き続き目指し、生活介護18名、就労継続B型13名の31名で活動を行った。(9月より新入館者就継B型1名、2月に生活介護除籍者1名を含)

特別養護老人ホーム「スマイルホーム西井堀」、「リハビリケアかつしか」など、施設外での活動を中心に、法人グループホーム清掃、レンタルタオルと各業務を進める矢先の4月初旬に発令された緊急事態宣言に伴い、福祉館利用者の通所自粛を行い、全ての就労活動を休止した。6月以降の宣言解除後もその影響は解消されず、スマイルホームでの清掃活動は表周り清掃の一部を除き中止し、業務の縮小を余儀なくされている状況が現在も続いている。しかし、グループホームの清掃や館内清掃など、衛生面をさらに重視した清掃行程の追加をいくつもを行い、利用者のみならず職員への感染症防止策の徹底が行えるなどプラスな面も大いにあった。

リハビリケアかつしかでは、活動自粛期間および解除後の福祉館の活動にご理解、ご協力していただくなど円滑な運営が出来、利用者に例年と変わらないやりがいと達成感を感じてもらえるような活動の場を提供する事が出来た。

レンタルタオルは高齢の利用者を中心に活動を行い、年間を通して安定した活動ができた。また、高齢の方々の今後の活動モデルとなるよう模索を始め、梅干し体操など介護予防策として一日のサイクルに取り込み試みた。

館内清掃・洗濯作業も安定した活動が出来、洗車においては福祉館への持込の方のみ受け付けた。

アルミ缶リサイクルは、地域の方々からのご協力を受け、途切れる事なく年間を通して活動を行う事が出来た。

外部マンション・駐車場清掃、お墓清掃も定期的に行い、利用者それぞれの個性に合わせた作業を提供する事が出来た。

原町かわら版の発行、発送も4回行う事が出来た。

9月には教養講座として身だしなみを予定していたが、衛生面の意識を高めていただくために手洗い講座を開き、手洗い・うがい・手指の消毒の大切さを学んだ。

シンフォニア東武等、他施設の学習見学は中止した。

今年度は様々な活動がなかなか軌道にのれず、館内での密を避ける行動を強く意識し、一日の振り返りや啓発活動（奥戸塾）などの活動を見送り、利用者の学習意欲に対する期待に応える事が出来なかった。一部利用者には連絡帳を改訂し、字を書く練習を兼ねたドリルのような物を組合わせた連絡帳を作成し使用した。タスカルカードの使用についても感染防止等安全面の確保から利用者主体から職員主体に必然的になってしまったが、利用者の方々の「仕事がしたい」というモチベーションに応えるために、職員一同が一体となり試行錯誤を繰り返しチャレンジした一年にもなった。

<清掃チーム総売上 6,520,976円> (9,747,387円)

○売上目標 (930万) ⇒ 6,520,976円

・館内清掃 洗濯	1,440,000
・生活寮清掃（お墓清掃含む）	2,324,000
・洗車隊	13,000
・スマイルホーム	204,000
・リハビリケアかつしか	1,823,443
・かわら版	300,000

・アルミ缶リサイクル	113,893
・レンタルタオル	302,640

<従たる事業所 ゆず屋・タッセルチーム>

今年度は利用者人数17名で、作業場をゆず屋、タッセルのグループと奥戸福祉館のグループに分かれて活動している。また新たにオリーブを作業場として常時組み込むことによって利用者たちが落ち着く環境作りをした。

新型コロナウイルスによる影響でタッセルが3月～6月と1月～2月、ゆず屋が4月～5月まで臨時休業とし、営業再開後もゆず屋は休日も17時閉店の時短営業とした。また、感染症防止対策としてマスク着用を義務化、レジ前にビニールシートの設置、タッセルでは座席数を減らして定期的に消毒をした。ゆず屋ではレイアウトを変更して店内の動線を一本化、レジかごの消毒、使い捨て手袋の着用、定期的な換気、寄付品の天日干しによる消毒などを行い、お客様、利用者、職員が安心して利用できるように努めた。

タッセルでは新メニューを追加しバリエーションを増やした。デザートメニューは検討段階なのでまだ実現に至っていない。また週に1回賞味期限、在庫確認を行うことにより食品ロスが起きないようにした。利用者も安定して作業出来ており、更なる支援としてレジ打ちもできる利用者を増やしていく。

ゆず屋では寄付受取場とレジ裏とで作業場を分けている。マニュアルについては作業方法も変更になったこともあり内容を3月に更新、作業の斑を無くすよう努めた。イベントについてはコロナ禍の影響で中止となっている。寄付も売れ行きが良くない傾向にあったズボン、スカート類の受け取りを終了したこともあり、古布が減少傾向だが、今後も減らす方法を考えるのが課題である。アンテナショップコーナーも同法人事業所の「アンジュ」「シャイン」「つむぎ」の自主生産品を出しており売れ行きも好調で地域の人に活動を知ってもらう機会となった。利用者も地域の人たちと触れ合いながら作業しており、レジ打ちができる利用者も出てきており作業内容が広がった。

オリーブでの作業を平日では常時開くことによって買い物、品出し、値付けがスムーズに行うことが出来た。利用者も余暇時間を取り込むことによって自分のペースで作業できているが、作業内容が少ないことが課題である。

奥戸福祉館では感染予防をしつつ、作業中、食事中も密にならないように努めた。作業だけでなく余暇で散歩なども行い、作業に幅を広げたが職員体制などの影響もあり常にすべての利用者が携わることはできなかった。余暇活動もコロナ禍の影響もあり毎月はできなかったが水元公園散歩とシンフォニーヒルズ昼食の2回行っている。また高齢化に向けた活動の摸索もできなかった。

ゆず屋、タッセルの利用者の実習は定期的に行うことが出来た。

○売上げ6,995,712円	【10,218,046】	()	は目標金額	【		】	は昨年度売上
・タッセル (250万)	1,332,450円			【2,630,425円】			
・ゆず屋 (800万)	5,528,662円			【7,587,621円】			

2 余暇支援（グループ外出）

昨年度2月にコロナで中止になったジブリ外出組は、10月にスヌーピーミュージアムに変更して行く事ができた。今年度予定した外出はコロナのため中止し来年度予定する。

3 就労援助

葛飾区就労支援事業（葛飾区補助事業）

クラフトと連携し、情報交換を行ったが就職を希望している利用者はいなかった。

4 保健

1. 健康管理

- ① 毎月体重・血圧測定を行い毎月の変動を確認。血圧の上昇が持続している場合は内科相談時に嘱託医に相談。体重の増加が著しい利用者は運動を取り入れている。
- ② 定期健康診断（7月17日）：54名の利用者が実施。その他8名の利用者は各自で実施済み。
定期健康診断の結果については各家庭・寮へ配布し再検査が必要な利用者に関しては検査を受けるよう促している。
- ③ 歯科検診（7月30日・1月26日）：原田歯科往診
利用者全員が対象。齲歯・歯肉の状態・磨き残しを診察してもらい、結果を各家庭・寮へ連絡。歯科受診が必要な利用者には受診を促した。
- ④ 歯磨き指導：毎年2回原田歯科往診にて利用者全員を対象に歯磨き指導しているが、今年度は新型コロナウイルス感染流行の影響により飛沫のリスクを考慮し中止。代わりに原田歯科より歯磨き指導の動画を借り利用者に視聴してもらった。
- ⑤ 内科相談：毎月第2月曜日立石医院往診
毎月10～12名の利用者を対象に実施。血圧の変動や健康診断の結果、症状、日頃の様子から利用者本人や職員が気になる事等を相談し、生活指導や通院を勧めることで病気の早期発見や悪化を防ぎ、治療を早期に開始できるよう努めた。
- ⑥ インフルエンザ予防接種（11月9日）：立石医院往診
希望者49名の利用者に対し実施。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染の早期発見・予防のため通勤前・出勤時に体温測定してもらい発熱の有無を確認。体調不良者は自宅療養や通院するよう各家庭や寮へ協力してもらった。
- ⑧ 新型コロナウイルス感染陽性者（1名）の発生時には保健所と連携し、濃厚接触者（9名）を特定。自宅待機要請、PCR検査提出を行い感染拡大防止に努めた。

2. 機能訓練：高田PT（2月10日）

館内で機能訓練をしている利用者（9名）の現状と課題を分析し訓練内容の見直しを行った。

3. 衛生管理

- ① 検便による細菌検査の実施（利用者・職員対象）
- ② パン製造・販売従事者、タッセル従事者は月1回
- ③ 給食の食器洗い従事者は6～9月は月2回、その他は月1回
- ④ 上記以外の方は年1回

4. 職員の健康管理

- ① 1月～2月にかけて葛飾健診センターにて健康診断の実施。
- ② 利用者同様出勤前または出勤時に体温測定をするよう促した。
上記以外の方は年1回

5 全館行事

宿泊旅行とやまもも祭、ホテルでの忘年会は中止したが白鷺集会所で会食しないクリスマス忘年会を開催した。ミニコンサートや職員余興、マジシャンの手品等で楽しんでもらうことができた。

6 地域交流

【地域交流】

毎年好評だったパン体験は、コロナのため中止をした。
子ども食堂に定期的にパンを寄付するとりくみをはじめた。

【ボランティアの受け入れ】

コロナのためやまもも祭が中止になってしまいボランティアの受け入れはできなかった。

7 利用者自治会

今年度はコロナのために多くの行事が中止になってしまった。コロナ禍でもリモートの古希を祝う会、クリ忘年会、送別会等を互いに協力し合い企画を行なった。職員は運営時にそれぞれの意見が反映できるように心がけその援助を行なった。

8 家庭との連携

連絡帳を活用して家族や寮との連携を図った。必要に応じて電話連絡や面談グループホームの利用者は合同処遇会議を行った。

定例家族連絡会はコロナ感染防止のため行わなかった。

9 リスクマネジメント

- ・パン関係2件、けが2件、服薬関係1件、車両事故が1件。
- ・パン関係は、納品したパンにカビが生えてしまった事、表示シールの貼り間違えだった。
- ・けがは利用者が館内の階段を1段抜きに降りて転び手すりに顔をぶつけ唇を縫った。職員で車から荷物の積み下ろし作業中転んでしまい腰を骨折し3か月の労災になった。
- ・服薬は、昼の薬飲み忘れ1件。

・壁に接触する自動車事故が1件あった。
 今年度は外部活動が減ったためか事故件数は少なかった。

10 広報委員

奥戸福祉館全体の活動を伝えるご家庭向けの通信を1回発行した。
 原町かわら版は法人の広報委員会と協力し、編集作業・印刷・封入発送を行い、年4回の発行をした。奥戸福祉館のフェイスブックを定期的に更新し開示した。

11 防災安全管理

(1) 訓練時は本田消防署へ自衛消防訓練通知書を届け出のうえ実地した。

実施日	種別	訓練内容
8月24日	避難訓練	地震発生による避難、及び通報訓練。
11月30日	避難訓練	地震発生による避難、及び通報訓練。
2月22日	総合訓練	火災発生による避難、及び通報訓練。
3月15日	避難訓練	火災発生による避難、及び通報訓練。
3月18日	防災教育	消火器使用、災害時搬送について教育。(職員のみ)

(2) 葛飾区地域防災無線の定期通信訓練を行った。(毎月1回)

(3) 火気施設点検を確実に実施した。

(4) 防災用伝言ダイヤルにメッセージを吹き込む訓練を行った。(毎月1日、15日)

(5) 感染拡大防止に配慮した訓練(防災教育)

3月18日 防災教育として下記を実施した。

出退勤時間を活用し、個々の職員が避難経路の確認。

館内の消火器がおいてある場所を確認。

消火器使用時の注意事項

消火器の使い方

災害時の様々な搬送方法

スマートフォンにて動画チェック

(6) 今年度、立石図書館の避難訓練が見送られた為、ゆず屋では行われなかった。

(7) 簡易トイレ、保存水を新たに追加購入し備蓄した。

12 苦情解決事業

・地域より4件苦情があった。1件は、利用者の女性への興味からくる問題行動で歩いている女性や自転車に乗っている女性に体当たりしてきて危ないという苦情だった。その利用者の通所ルートと時間を変更した。2件他は全てゆずやタッセルでの職員の接客対応についてであった。苦情を受け付けた際はすみやかに対応し再発防止を講じた。

Ⅲ 管理運営

1 職員研修

(1) 外部研修・講習会参加実績

研修・講習会・会議名	開催日・場所	参加者
目からうるこの会計と決算書の見方	7/10 日本教育会館	丸山
パン個別試食会	9/2 上野	新井・飯田
高齢知的証が者の支援	10/1 オンライン	児山 井澤
食品衛生管理研修会	11/27中野サンプラザ	柿木
新型コロナウイルス対策BCPを活用する	12/11 //	藤方 小平
従事者の気づきの力を高める研修会	12/17 オンライン	児山 石川 工藤 柳 井澤
働く障害者に対する性教育	2/16 ウイメンズ	新井 石川
事務職員向け知的障害者理解	2/26 オンライン	大谷 細貝
認知症を発症した知的障害者の支援について	2月 オンデマインド	井澤

2020年度 アンジュ 事業報告

1. 利用者状況（3月末）

○在籍状況 男性 32名 女性 19名 合計 51名
 （平均年齢）男性 60.43歳 女性 57.26歳 全体 59.25歳

○年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	0	2	5	6	11	8	32
女性	0	2	3	3	7	4	19
合計	0	4	8	9	18	12	51

○支援区分別 平均支援区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	4	6	14	6	2	32
女性	4	2	7	4	2	19
合計	8	8	21	10	4	51

○推移状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	21	18	22	21	14	19	21	19	20	13	18	22	228
男性	32	32	32	32	32	32	32	33	33	33	33	32	388
女性	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	239
利用者数	52	52	52	52	52	52	52	53	53	53	53	51	627
出席率	70.4	69.7	81.0	76.0	77.5	74.3	76.7	78.4	78.9	75.6	72.3	74.5	75.9

- ・新規利用者2名（4月GH1名・11月他法人GH1名）
- ・退所者2名（3月死亡1名、3月法人内障害者雇用へ1名）

2. 利用者支援

今年度は、4月後半～2ヵ月間新型コロナウイルス感染予防の為の通所自粛があり、通所再開後も蜜を避ける為、利用者を2班に分け、分散通所とした。8月より全員での通所再開となったが、夏休み期間に3階の給湯器からの水漏れにより1ヵ月半に及ぶ工事が必要となり、夏休み明けより勤労福祉会館・シャングリラ1階での2ヵ所に分かれての活動となった。10月よりようやくアンジュ2・3階において落ち着いて全員で活動する事が出来た。1月後半に1名の利用者（法人内GH利用者）のコロナウイルス感染が判明し、利用者のお大半と全職員がPCR検査を受ける事となり、2週間の休業を

余儀なくされた。その方はコロナの影響で持病が悪化し1ヵ月半に及ぶ闘病の末帰らぬ人になってしまった事は残念であった。しかし、事業所内での感染は起きず、日頃の感染対策が効果的である事が証明された結果となった。

クラブ活動も4月後半～11月末まで中止していたが、12月～活動内容を変更する形で再開した。クラブ活動を楽しみにする利用者も多く、通所意欲の維持に繋がった。

3. 活動内容

(1) 生産活動

○受注作業

今年度はコロナに始まりコロナに終わった1年となった。下記の通り(株)東栄社、(株)オビツ製作所共に前年度実績を大きく下回る結果となった。(株)東栄社に関してはコロナによる影響の他、一時期担当社員の移り変わりが激しく、意思の疎通が図りづらい時期があったが、3月より改善の兆しが見られた。

(株)オビツ製作所に関しては先方の業績の影響からか、キューピー人形の組み立て作業が全く無く、スチール板の袋入れ作業のみとなった。内的要因としては、コロナ禍による4月～6月迄の通所自粛及び分散通所と、8月の水漏れ事故による活動場所変更が受注作業に影響し、結果実績にも大きく響いた。

主な受注

東栄社：オルゴール（校歌・一般曲）、つないで組んで、スーパー紙版画、
T-BOX シリーズ、コロコロシリーズ

オビツ製作所：スチール板（11 cm・27 cm・50 cm）袋入+テープ貼り

収入

東栄社 974,351円（前年度対比77.5%）

オビツ製作所 12,963円（前年度対比12.3%）

○委託作業

・清掃

今年度は、2ヵ月の自粛期間と水漏れに伴う工事の為、活動を行う期間が限られていた。10月からは、男性利用者1名が怪我の為清掃活動を休止し、それ以降は8名で活動を行った。皆、活動再開時も清掃内容を覚えており、一生懸命取り組んでいた。職員が清掃活動の様子を見に行き、作業工程通りに出来ている時にその事を伝えると、安心した様な表情を見せる利用者もいた。

今後は、清掃活動の様子を確認する機会を増やし、利用者が自信を持って活動を行える様、必要に応じて助言や評価を行っていく。

(2) 自主生産活動

○しめ飾り

今年度は新しく 80 個作成し、エコライフプラザのゆず屋や区役所販売会等で 59 個販売した。水漏れ工事で他の場所で活動していた際や、受注量が減ってしまった際の軽作業の穴埋めの活動として機能した。

○くるみボタン・髪飾り・ストラップ

受注作業が減った際に、手先が器用な利用者を中心に活動を行い、区役所販売会等で販売した。担当職員の工夫もあり、好評であった。

収入 58,000円

(3) クラブ活動

4 月後半から 11 月まで新型コロナウイルス感染予防の為自粛した。12 月から再開の為、カラオケクラブは廃止し新たに DVD クラブを立ち上げた。制限を設けての再開ではあるが、活動を楽しみにしていた利用者もあり、多くの利用者が楽しんで参加していた。但し、散歩は職員体制が整わずあまり実施出来なかった。

(4) 体力・筋力の維持の取り組み

ラジオ体操・嚙下体操・介護予防体操を行った。介護予防体操は、PT による DVD 以外にもごぼう先生の DVD を使用する事が好評で、意欲的に皆行っていた。クラブ活動時の散歩はあまり実施出来なかったが、受注作業が少ない時期には、図書館を始め近隣への散歩等を行った。

(5) 機能訓練

新型コロナウイルス感染予防の為、4 月から 6 月まで機能訓練は休止とした。7 月 7 日にマスク着用、消毒を徹底しながら再開した。参加利用者はとても意欲的に取り組んでいた。しかし、8 月以降は新型コロナウイルス感染者数が増加した影響で再度休止した。利用者も機能訓練を心待ちにしている為、来年度は新型コロナウイルス感染予防に留意しながら、機能訓練の再開を目指す。

車椅子利用者の歩行訓練については、週 2 回実施した。

(6) 行事・余暇活動

新型コロナウイルス感染予防の為、今年度は外出行事や昼食外出は中止した。来年度は感染予防に留意しながら行事再開を目指す。障害者作品展に出展した際、小グループに分かれて見学に行き久々の外出を楽しんでいる方も居た。

○行事

・お楽しみ会（お楽しみ昼食）

感染予防の為、2 階・3 階にて寿司とケーキ、お土産の菓子を提供する事でお楽しみ昼食とし、合わせて、還暦のお祝いも行った。マスク着用、ソーシャルディスタンス確保、三密回避を徹底しながら盛り上がった。過去のスライドを鑑賞し、ゆったりと利用者・職員とのコミュニケーションを楽しんでいた。

4. 従たる事業所「キッチン Kiss・原町食堂」

(1) キッチン Kiss

昨年度同様3名の利用者でスタートしたが、通所自粛の影響で、4月後半からは、職員のみで調理、盛り付け、配食を行った。5月には活動場所を移し、衛生面に十分注意して行った。新型コロナウイルスの感染予防策として、弁当箱を使い捨て容器に変更し、回収業務も中止した。6月からは利用者の受け入れも再開し通常業務に戻ったが、衛生面や感染対策に細心の注意を払って作業を行った。

イベントについても制限や中止が続いた為、昼食時に少しでも季節を感じてもらえるような献立にし、カード等を作って工夫した。また、誕生日カードを誕生日の前後でお弁当に貼り付けて提供したが、とても好評だった様に思われる。

自粛生活の影響からか、1人の利用者は生活リズムが崩れ、毎日通所する事が困難になった。給食業務に対して拒否があり、本人の得意とする事務作業での書き物やカード作りを行い、段階的に通所日数を増やす事で、12月には安定して毎日通所出来るようになり、3月には給食業務に携わる時間も増えた。

また1人の利用者は3月より法人内の障害者雇用で採用され、キッチン Kiss で働いている。

(2) 原町食堂

新型コロナウイルスの感染予防の為、1度も開催出来なかった。

収入 7,400,138円

5. 健康管理

毎月体重・血圧測定を行い、定期健康診断をシャングリラと合同で行った。また、感染予防として、午前・午後の2回検温、活動前・昼食前の手の消毒、手すりや送迎車内等の消毒を行った。

2か月に及ぶ通所自粛や分散通所、生活面での外出自粛等の影響で体重増加、筋力・体力の低下という身体面の変化に加え、通所意欲の低下等の精神面での不調が顕著に見られるようになった方も居た。自粛生活における心身への影響を痛感した1年であった。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 9/15

6. 地域交流

新型コロナウイルス感染拡大の影響で福祉を学ぶ学生の現場実習や区内中学の職場体験実習の受け入れ要請はなく、他場面でも地域交流は出来なかった。

7. 防災

感染予防の為、避難訓練という形は避け、防災ビデオを各階で観賞し、地震・水害・火災時の対策を学んだ。また、日常的に避難路の確保に努めた。

10 / 28 防災ビデオ鑑賞 (地震・水害)

3 / 18 防災ビデオ鑑賞 (地震・水害・火災)

8. 職員研修

(1) 職員研修

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、殆どの研修がオンライン研修になり、参加しやすくなった。しかし、他法人職員との交流の機会が持てない事や、研修自体が年度前半は開催がなかった為、全職員が参加する事が出来ない等、マイナス面もあった。

① 外部研修

○PIPPO が伝えたい 魅力的な自主生産品の作り方 11 / 24 高橋

○強度行動障害支援者養成研修 (基礎・実践) 2 / 7・14・21 池上・高橋

○人権を守るってどういうこと? 3 / 13 嶋村・佐藤

② 内部研修

○虐待防止・権利擁護 12 / 16

シード・フォレスト

2020年度事業報告

シード（生活訓練）定員15名

フォレスト（就労移行支援）定員20名

1. 利用状況

シード

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	14	12	12	12	13	11	9	9	9	9	8	8	126
のべ稼働日数	193	181	238	254	246	210	169	155	185	138	143	178	2290
新規利用	3	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	7
退所者	0	2	1	0	3	2	0	1	0	1	0	0	10
退所者内訳	うち就職	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	うち就労移行	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	うち他施設	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	4

- ・新型コロナウイルスの影響で、土曜日の活動を自粛したことから4月、5月、1月、2月の稼働率が低下している。緊急事態宣言時の在宅利用者は1名。
- ・就労移行支援にサービス変更した利用者は3名。
- ・8月には1名が就職。飲食業のため、緊急事態宣言下では自宅待機が必要な場面もあったがグループホーム、会社の協力を得て、不安定ながらも障害特性に合わせた対応を続けていくことで就労継続できている。
- ・他施設に移行した利用者については、安定した通所ができなかった、通所はできたが職員側が適切な対応ができず、不適応行動が増加したため退所に至るケースがあった。

フォレスト

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	22	22	22	21	18	19	22	22	24	22	22	21	257
のべ稼働日数	367	365	462	409	329	356	389	326	332	203	202	249	3989
新規利用	2	1	0	1	1	2	4	0	0	0	0	1	12
退所者	1	0	2	4	1	1	0	2	2	0	2	0	15
退所者内訳	うち就職	1	0	1	3	1	1	0	2	2	0	2	13
	うち生活訓練	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	うち他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・新型コロナウイルスの影響で、土曜日の活動を自粛したことから4月、5月、1月、2月の稼働率が低下している。緊急事態宣言時の在宅利用者は2名。
- ・利用途中で生活訓練にサービス変更した利用者2名。
- ・求人数が減少し、業種によっては求人がほとんど無い状況であったが、年間就職者は13名であった。そのうち、マッチングがうまくいかず退職して再利用になった利用者が1名。
- ・新型コロナウイルスの影響で、離職し再利用することになったケースも1件あった。

2. 支援体制

訓練プログラム

外部講師に依頼している、アサーティブトレーニング、ビジネスマナーについてはzoomを利用しオンライン化を進めた。お習字は通信添削に変更した。

オンライン授業について当初は講師、職員共に慣れない作業で試行錯誤しながらであったが、必要な機材とオンラインを生かした進行方法を工夫することで、少しずつ充実させることができた。アサーティブトレーニングでは、障害者の支援経験のある長崎在住の方に講師をしていただくことができた。ビジネスマナーでは講師の繋がり、カナダからオンライン実況中継していただくなど、オンライン化することで幅広く対応ができた面もあった。

余暇支援

コロナ禍では、外出して遊んだり、食事をすることができなくなり、フォレストの事業所内での創作活動に切り替え、月1回の活動を継続した。

スクリーンを設置したことで、大画面で映画鑑賞ができるようになったため、定期的に希望者に集まってもらい映画鑑賞を行った。

3. 事業目標達成状況

① 施設の広報活動

不定期で見学者を受け入れることはできたが、説明会、夏休み体験講座など予定していたイベントについては、新型コロナウイルスの影響により実施することができなかった。

② 支援技術向上に向けた活動

グループに分かれてペアレントトレーニング、認知行動療法、傾聴を学ぶための学習会を月1回開催した。

③ フォレスト目標就職者数15名

フォレストからの就職者数は13名。この他にコロナ禍で休業が長期にわたる利用者に対しての転職活動を行い、2名が転職することができた。

原町成年寮職場定着支援センター 2020年度事業報告

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	29	29	30	30	30	32	34	32	31	33	35	36	381
支援件数	27	30	30	30	30	30	34	35	38	34	36	40	394
職場訪問件数	0	1	2	5	4	6	14	9	11	3	2	11	68
利用終了	0	1	1	0	0	0	2	1	2	0	0	1	8
新規利用	0	1	2	0	0	2	2	0	1	2	3	2	15

- ・ 4月～6月にかけては、新型コロナウイルスの影響で職場訪問ができず、電話による現場確認や面談の実施による本人の状態確認が主となった。
- ・ 長期間自宅待機、あるいは時短勤務になる利用者については、職場の方と相談しながら転職活動を進めるケースもあったが、間を開けず転職ができたケースと、一時的にフォレストの利用をしてもらったケースがあった。
- ・ 42ヶ月以上78ヶ月未満の職場定着率85%

2020年度 シャイン 事業報告

I 運営

新型コロナウイルス感染流行のため、運営も活動も利用者の健康を守りながら臨機応変な対応が求められる一年だった。通所事業所だけでなく、居宅事業所とも連携をとり利用者の健康を守ること、職員の健康と職務の遂行と負担を考慮しながら施設運営を行う一年でもあった。緊急事態宣言発令により外出を伴う余暇支援は行えなかったが、プリントでの学習支援や塗り絵等の余暇的な支援を行った。利用者の活動時間が30分短くなったが利用者からはコロナ感染のことも重なり、帰宅時間が早まったと喜ぶ声が多かった。不満を口にする利用者はいなかった。従たる事業所「つむぎ」では多様化した作業や活動を提供した。外出企画や販売を含む活動は中止している。

【利用者組織体制】

就労継続B型事業所 定員10名 利用者現員10名（男性：6名・女性4名）
生活介護事業所 定員30名 利用者現員31名（男性：22名・女性9名）
（本体：定員34名 利用者現員35名）（つむぎ：定員6名 利用者現員6名）

【会議・研修】

職員会議：月1回：全職員・ケース会議：随時・給食会議：月1回
軽作業会議：月1回・つむぎ会議：月1回
各研修：内部・外部（権利擁護、虐待防止・感染予防等）

【就労支援事業会計】

売上（39,634,088）円
☆給食（24,638,570）・お惣菜（66,690）・お弁当（19,500）・GH配食（13,421,000）
自主生産（食品）（0）・公園清掃（413,504）・野菜販売（66,339）
自主生産（雑貨）（104,500）・自販売機手数料（76,752）・駐車場清掃（289,788）
定期便（120,000）・段ボール（0）・受託作業（419,445）
☆利用者工賃平均工賃
令和元年度（158,971）円／年 （13,248）円／月

II 生活介護事業所

☆利用者工賃平均工賃

令和元年度（156,405）円／年 （13,034）円／月

【作業活動】

所内清掃と所内消毒、給食作業に使用する白衣等の洗濯・乾燥・保管を行い、食品に携わる施設として衛生を保てるよう努めた。その他、給食・洗浄作業や地域清掃、社内便封筒の作成、紙すきなど個々の能力に合わせた作業を提供している。自主生産品では、プラバン・レジンアクセサリーの製作を行っている。健康面に配慮し、ラジオ体操と骨盤底筋を鍛える体操を毎日実施した。また利用者の高齢化に伴い認知症予防の体操を実施した。

【従たる事業所 つむぎ】

今年度10月に事業所の移動を予定し準備を進めていたが延期になっている。またコロナウイルス流行もあり活動の制限もあったが、利用者の特性に配慮し環境変化の無いよう出来るだけ通常の活動を続けている。利用者情報の更新や事業所内の物品を利用者向けに

新しくしている。

◆作業面

① 園芸作業（自主生産）

外部販売（マルエイ西葛西店 風のマーケット）ではハーブ（カレーリーフ、レモングラス等）が主力商品となっている。その他野菜などは法人内にて販売した。

年間の作物育成計画を作成、また畑も利用者に危険がないよう区画の整理を行った。

② 清掃作業

公園清掃（区委託事業）→今年度は、除草作業は行わず、公園内の清掃のみとしている

駐車場清掃（外部受注）→コインパーキング清掃。1ヶ所清掃する場所を増やしている

③ 外部委託作業

ハトメ作業（外部受注）パッキン作業（外部受注）→順調に作業を受注している。

④ 自主生産作業

プラバンのキーホルダーを作成。奥戸福祉館と連携し、ゆず屋にて販売を行った

⑤ ウォーキング

利用者の体調に配慮しながら週に1回は必ずウォーキングを行っている。

⑥ 創作活動

雨の日などに貼り絵を作成し障害者作品展に出展している。

◆宿泊訓練

コロナウイルス流行の影響もあり行っていない。

Ⅲ 就労継続支援B型事業

☆利用者工賃平均工賃

令和元年度（169,832）円/年 （14,153）円/月

【作業活動】

働く事を基本とし、作業を通して一般就労を意識出来るよう支援を行った。家庭及びグループホーム向けに、食中毒対策や対応について情報の提供を行った。食中毒や感染症（ノロウイルスとコロナウイルス）の予防に対する意識の強化に努めた。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言時、法人内の居宅事業所へ昼食の提供を行った。またロックダウンした居宅事業所に、食事（朝食・昼食・夕食）の提供を土日祝日含め行った。

【就労】

一般企業への就労を希望する利用者に向け、社会スキル習得のための取り組みを行った希望する企業実習に向けた面接会があり、抽選により面接自体は行えなかったが、面談や履歴書の書き方などの必要なスキルを職員と共に学んだ。

・必要に応じ関係機関との連携を図った。また、一般企業へ就労した利用者へのアフターケアとして、電話や直接の相談を受けた他、職場訪問や仕事内容のフォローを行った。

★就労

Mさん 面接の練習、履歴書やエントリーシート記入の相談

★アフターケア

Kさん 電話や本人来所での相談

Mさん 健康管理、仕事内容フォロー（原町成年寮雇用）

【食品売上】

食品売上 (38,145,760) 円

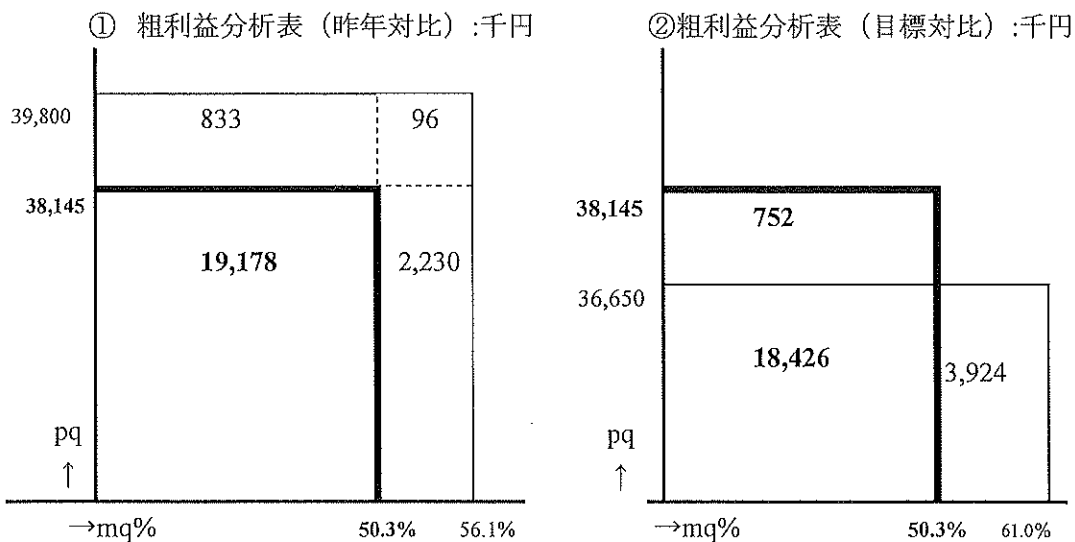
材料費 (18,967,685) 円

【食品売上分析】

☆食品売上計：(38,145) 円 ※単位：千円

☆材料計：(18,967) 円 原価率(49.7%) (vq%)

(令和2年度実績)	食品売上 (pq)	=38,145 円	
	粗利益 (mq)	=19,178 円	(粗利益率 50.3%) (mq%)
(昨年度実績)	食品売上 (pq)	=39,800 円	
	粗利益 (mq)	=22,337 円	(粗利益率 56.1%) (mq%)
(売上目標)	食品売上 (pq)	=36,650 円	
	粗利益 (mq)	=22,350 円	(粗利益率 61.0%) (mq%)



★①昨年対比では売上げが下がったことよりも利益率が下がった為、利益が減ってしまったことが主な要因ということがわかります。②目標対比では、売上が上がったにも関わらず利益率が下がってしまった為に利益が減ってしまったことがわかります。新型コロナウイルス感染予防の為、使い捨て弁当容器を使用し材料費が上がってしまったことが大きな要因と考えられます。

【食事提供】

① 調理作業

技術向上を目指し、各利用者に合わせて作業提供を行った。HACCPに基づき食品の取り扱いや大型機器の取り扱いなど、衛生的且つ安全に行えるよう努めた。毎日作業終了時にヒヤリハットとして報告を出し合い、記録を残し事故対策や防止に努めた。調理実習の要望が多かったが、コロナウイルス感染予防の観点から今年度は実施していない。

②配膳作業

コロナウイルス感染防止対策として、状況に合わせて使い捨て弁当容器に切り替え必要な備品を新たに導入する等の対応を行った。それに伴い、新たな作業の流れを構築し、利用者にわかりやすく伝えていった。その中で利用者を主体とした作業を行うために、作業の動きを一人一人が意識出来るよう取り組んだ。

- ・喫食者個々のニーズに合わせて食事形態を考慮し(刻み食、ミキサー食、減塩食、代替食等)対応を行った。嚥下食、糖尿食はニーズがなく今年度は実施していない。
- ・日頃の手洗いや消毒などを通し、衛生への意識を高め、喫食者を意識した盛り付けへの配慮を心がけた。
- ・寮の夕食・朝食においては、個別の対応をしていることもあり、確認作業の強化を行いミスの無いよう努めた。

③洗浄作業

- ・一部役割を明確化し、各々が役割に対する責任や作業効率を上げられるよう支援を行った。必要に応じて備品の補修、修理を行っている。
- ・コロナウイルス感染予防の為、外部から空のお弁当箱を所内に持ち込まないように使い捨て容器に切り替えた為、洗浄の作業が少なくなった。

④配達作業

- ・昼食、夕食共にゆとりを持った時間配分で安全運転での配達を実施している。
- ・寮の夕食、朝食の配達先の状況に合わせて配達ルート調整を行い職員間で周知を徹底することで、ミスの無いよう努めた。

⑤衛生管理

- ・HACCPに基づき諸々の衛生管理を行った。また、令和3年6月の義務化へ向けて実態の確認、整備を進めている。
- ・調理従事者の細菌検査を月1回行った。
- ・調理従事者は、入室時、健康チェック及び身だしなみチェックを毎日行った。
- ・給食作業室には、2回の手洗いとトリミング(集塵機)を行ってから入室し、手洗いには専用の液体石鹸、爪ブラシ、ペーパータオル、アルコールを使用した。また、液体石鹸とアルコール消毒液はセンサー式のディスペンサーを使用し、より清潔を保てるよう配慮した。
- ・インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルス対策として、後述の対応を実施した。注意喚起のお知らせを配布、調理従事者への健康チェック強化、所内のアルコールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液による消毒を毎日行った。吐しゃ物処理セットを各階に用意し、有事の際に迅速な対応が行えるようにした。
- ・穀類、調味料、乾物類は、衛生上十分配慮した専用の場所に保管した。
- ・厨房等の害虫駆除を外部業者に委託して実施した。飛来昆虫捕虫テープの交換を行った。
- ・グリストラップ清掃を行った。外部業者にも依頼して清掃を実施した。
- ・保健所の立ち入り検査があったが、特に問題なく終えている。
毎年実施していた手指検査や食中毒についての講習会は、コロナウイルス感染防止の為行わず、日頃の注意喚起とお知らせにて周知している。
- ・職員向けに、株式会社サラヤによる感染対策や予防のオンライン講習を受け、周知している。

・検食及び保存食を行った。検食者は味付け、色彩、形態、意見などを検食簿に記入した。検品時に原材料をそれぞれ50g採取し、保存食を盛り付け時に献立ごとに50g採取し、-20℃で2週間保存した。

⑥栄養指導

・食事療法が必要な利用者には、その都度アドバイスをを行った。

⑦異物混入及び事故対策

・毎日作業終了時にヒヤリハットを報告し合い、記録を残し事故対策や防止に務めた。

⑧給食会議

現場の状況報告・職員の体制・利用者の体制・業務の課題や方向性について話し合いを行った。2階調理作業と1階配膳・洗浄作業の職員間の連携に重点を置き話し合いを行なった。安心、安全な給食の提供を行う為、職員間の意識向上に努めた。

⑨献立発注

栄養価のバランスや行事食等の楽しみを考慮し、献立を作成した。また、業者ごとに発注書を作成。在庫管理と並行し調整しながら発注を行った。年度末に棚卸を行った。

【食品販売】

①惣菜販売

新型コロナウイルス感染予防の為、対外的な惣菜販売は中止している。販売再開に向け食品表示法に基づいた表示シールを作成している。

②弁当販売

通所事業所や法人GHなどを対象にお弁当販売を行った。各地域のイベント販売に関して、コロナウイルス対策の観点から今年度は参加を見送っている。

【その他】

葛飾区のご当地ヒーロー「ゼロング」とのコラボ商品を企画、ゼロングプロモーション10周年という事でより強い協力体制を築いている。

【雑貨販売】

①折り紙レジンアクセサリ、プラバンアクセサリ、紙すきの作成を行った。

②今年度もレジンアクセサリをKURUMIRUから受注し、各店舗（東京都庁B1F・錦糸町店2F・伊勢丹立川店4F）にて販売している。今年度8月より、折鶴のアクセサリ、プラバンアクセサリを立石図書館内リサイクル品店『ゆず屋』で販売している。

【販売会・受注販売】

・販売会

新型コロナウイルスの影響により各イベントが軒並み中止となり、また感染防止の観点から開催のイベントに関しても参加を見送っている。次回のイベント開催に向け、利用者と昨年までのイベント内容を振り返り今後への意欲につなげた。

IV 利用者ケース

【利用者ケース】

・Cさん(女性)

本人より希望があり、出向という形をとりアンジュのキッチンキスにて4月1日より活動を行った。本人とGHの意向を汲み、GH職員を中心に支援を行っていたが、10月中旬頃から「自分に合わない」等様々なことを理由に通所が困難となった。GH・キッチンキス・本人と話し合いを重ねた結果、本人の希望もあり12月よりシャインに活動場所を戻すことになった。シャイン通所再開当初は遅刻することが一度あったが、それ以降は問題なく通所することが出来ている。

・Cさん(女性)

以前シャインに在籍しておりフォレスト・シードへ異動、その後一般就労をしていたが令和元年9月に退職。令和2年7月シャインへの入所希望があり、面談・現在のシャインでの活動について説明を行っている。意思確認後、改めて入所したが、その後も不安定な状態が続き、通所も安定せず。精神状態の悪化や自傷行為などもあり、9月に国府台病院に入院。12月に退院、そのタイミングでGHも移動している。その後は本人の希望があり病院のデイケアを利用し療養が続いておりシャインへは通所できていない状態である。

・Yさん(男性)

令和2年11月、つむぎの作業終了時刻が押したことで待ちきれず不安定になることがあった。職員に対し他害をしようとした為、隣室に誘導をしたところ気持ちが切り替えられず窓に突進し、結果として窓ガラスを叩き割っている。本人は掌を少し切ったため消毒保護し、ガラスはその日のうちに修理を依頼し交換している。

・Oさん(男性)

GHにて通所しないで自肅中に新型コロナに罹患し(羅漢中、潜伏期間を含めて通所していない)、令和3年2月3日～9日入院。回復後、後遺症もなく2月15日より通所再開。問題なく通所することができている。

・Mさん(男性)

令和3年3月、GH近隣住人より金銭を授受しゲーム機等を購入したことが発覚。相手方(知的障害者)の確認もとれ、謝罪・返金をしている。その後、夜勤寮へ異動、シャインの通所も送迎車を利用し、当面単独での外出を控えることになった。

・Hさん(女性)

令和3年2月、以前より希望していた奥戸福祉館への異動を視野に入れた実習を実施。実習後に再度意思確認を行い、来年度4月より異動となった。

・Sさん(女性)

昨年度より引き続き、GHの意向で通所することよりも、優先して生活の見直しを目指していた。年明け頃より、本人からシャインではなく(作業がないような)他施設へ通所したいと希望があった。相談支援やGHと会議を重ね、再度本人にも意思を確認し、3月末をもって退所となった。

・Yさん(男性)

癌の治療中でもあり、今年1月から、医師より現在の状況と本人の状態を考慮して通所自肅を勧められ休んでいる。

・Kさん(男性)

一般就労をしていたが、令和元年11月に脳出血と診断され入退院し、その後退職して

いる。令和2年4月にシャインを見学後5月に入所、自粛期間を経て半日通所開始。腎不全の為、減塩食を提供している。

V 学習支援

希望のある利用者に向け、読み書きや計算、英語、塗り絵等の学習プリントを提供した。成果を実感できるように、個人の専用ファイルや終わったプリントに貼るシール等を使用した。コロナ禍により活動が制限される中、学習と余暇につながった。

特定の利用者より、調理師の資格取得に向けて勉強したいとの希望があった。教材の用意など環境を整え、学習を行った。11月の障害者作品展に向け、希望者で作品を制作した。自由に製作することで自己表現ができ、また各々がテーマを掲げやり遂げることで成長にもつながった。

VI 行事

【行事】

コロナ禍により、休日余暇や個別外出、全体余暇外出、ふれあいマルシェ等、ほぼ全ての行事が実施できなかった。活動自粛や半日活动等により、全員が一堂に会する場がなく、古希や還暦、成人等の式典も来年度以降に見送っている。

年度終盤には、感染防止に配慮して少しずつ行事を再開している。豆まきは、距離を保ち大声を出さない等の対策をとり実施した。花見は、少人数で10分程度のお花見散歩という形で行っている。

VII 保健

【定期健康診断】

利用者・職員共に実施した。

【健康管理】

- ・昼食前後の服薬の確認体制を強化し、チェックシートと服薬ボックスを用いて漏れないように務めた。
- ・臨時薬(服薬・点眼・塗布薬)については、適宜確認を行っている。
- ・毎月月末に、血圧・体重測定を実施。大きな変化が見られた際は、保護者やGH職員、看護師と情報を共有している。
- ・血圧が高い傾向にある又は高血圧の方は、毎朝通所時に血圧測定を実施した。
- ・家庭やGHと連絡を密に取り、健康管理に努めた。

【新型コロナウイルス】

配食を行うことを主としている為、新型コロナウイルスだけでなくノロウイルス等の感染予防にも利用者職員共に取り組んだ。緊急事態宣言時は奥戸福祉館から多大な協力を得て、キッチンキスと共に法人内グループホームへの配食や衛生用品の提供を行った。またグループホームへ、日中支援や夜勤業務等の乗り入れも行った。今後も引き続き予防を行っていく。

【その他】

- ・毎月細菌検査を行った。提出者は全て陰性だった。
 - ・インフルエンザの流行時期は、対策として全員マスク着用、手洗いうがいを促している。また毎日、次亜塩素酸水で所内を消毒している。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、マスク着用・検温の実施・換気を徹底し、所内の消毒も強化している。

VIII 防災

【自衛消防訓練(火災、地震、水害、不審者対応)】

火災、地震を想定し指定の第一時避難場所へ避難する訓練を行った。(コロナウイルス感染予防の為、密にならないように各フロアで指定の場所へ避難する訓練を行った。)水害の避難先はシャイン建物4階へ階段を使用し避難訓練を行った。また不審者の侵入を想定し、不審者に対応した訓練を行った。毎月最終週に実施した。

IX 地域交流

地域の方々に開かれた施設として、地域の方との繋がりを持ち、シャインを理解して頂けるように、奥戸二丁目町会の活動に参加している。

- ・地域清掃…利用者の作業として行った。
- ・町会…地域や町会の行事は、新型コロナ感染予防のため中止も多く、二つの行事のみ職員だけで参加し交流を深めた。(大しめ縄作り・年末の初詣の準備)

X ボランティア

新型コロナ感染予防の為、休日余暇や行事等が中止や小規模での実施になったため、ボランティアの受け入れを行わなかった。

2020年度 シャングリラ 事業報告

1. はじめに

年度当初から新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言が発出され、不安の中でのスタートとなった。高齢者や基礎疾患を持ち体力も弱い利用者が多く、感染すると重症化するリスクが高いため、まずは「持ち込まない、持ち込ませない」ための初動対応をマニュアルに沿って徹底した。

誰が感染するかわからない状況で、手洗い、消毒、マスクの着用をお願いし、マスクができない利用者への対応は職員にとっても不安の中での支援となった。

新型コロナの影響は、活動の変更や中止も余儀なくされ、生活の場でも自粛が続いている状況で利用者の不満、ストレスに繋がっていた。

事業所で感染者が出ることはなかったが、利用者、職員共に事業所以外の生活の場で感染または濃厚接触者となり、入院や自宅療養となった。利用者や職員が濃厚接触者に該当することはなかったが、事業所を休所し利用者、職員のPCR検査の実施、事業所内の消毒を行い早期に安心して利用できるよう努めた。

事業所での感染予防対策の徹底と、利用者や職員の健康状況を毎日把握し、これまで以上に法人内グループホームや他施設と情報を共有し事業継続に努めた。

2. 利用者状況（3月末）

○在籍状況 男性 11名 女性 10名 合計 21名（定員 20名）

（平均年齢）男性 64.5歳 女性 59.4歳 全体 62.1歳

○年齢別

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	1	1	2	1	5	1	11
女性	0	2	3	3	2	0	10
合計	1	3	5	4	7	1	21

○支援区分別 平均支援区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	1	4	2	4	11
女性	0	0	1	3	6	10
合計	0	1	5	5	10	21

○推移状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数(日)	21	20	22	21	16	20	22	19	19	13	18	21	232
延利用者数(人)	367	344	395	367	302	368	395	341	349	246	317	374	4165
利用率(%)	87.4	86.0	89.8	87.4	94.4	92.0	89.8	89.7	91.8	94.6	88.1	89.0	90.3

○退所者 1 名 (R2.6 月 認知症型グループホーム)

○新規利用 1 名 (R2.7 月)

○高齢者デイサービス(介護保険)の利用 1 名

○職員体制

管理者 1 名 (兼)

サービス管理責任者 1 名

生活支援員 11 名 (常 9 名・パ 2 名)

看護師 1 名 (兼)

運転手 1 名

事務員 1 名

3. 利用者支援

○創作活動

利用者の興味や適性に合わせて、塗り絵やドリル、壁面装飾作り等、個々の希望する活動を提供した。壁面装飾では、お花紙やロールピクチャーを使用して季節に合わせた作品を作成し、障害者作品展にも出展をした。個々の作品では、ウォールポケットやエコバッグ等の新しい作品作りに挑戦をしたことで作品の幅が広がり、利用者に充実した活動を提供することが出来た。

○音楽活動

新型コロナ感染症予防のため、今年度の音楽活動は中止とした。

○機能訓練

月に 3 回理学療法士が来所される予定だったが新型コロナ感染症予防のため、来所しての訓練は中止した。これまでの訓練メニューを基に機能訓練を実施し、ADL の維持に努めた。また、全体での嚙下体操は自粛したが、嚙下に不安のある利用者に対しては個別に訓練を実施した。

○入浴

これまで入浴するために体温や血圧等に基準を設定していたが、健康状態によっては主治医から入浴許可書を取ることを新たに基準に追加し、利用者、職員が互いに安心、安全を確認し入浴できるようにした。

入浴希望者 16 名が週 1 回～週 5 回と回数は違うが、1 人 40 分程度を目安に、音楽を聴きながらリラックスした雰囲気が入浴ができるようにした。1 日平均 9 名が入浴した。

○余暇活動

新型コロナウイルスの影響で、外出が難しく施設内で行う活動が主となった。昼食外出は昼食購入外出に変更し、感染対策を行い実施した。利用者は久しぶりの外出で喜んでいました。

- ・ドライブ（車窓）
- ・運動レクリエーション 月1回
- ・クッキング 7/13.27 8/31 9/28 10/26 11/30 3/8
- ・すいか割り 7/29
- ・昼食購入外出 12/9.14.16.18.21
- ・豆まき節分レクリエーション 2/9

○行事

感染対策を行い、8月7日に納涼祭、12月25日にお楽しみ会と長寿を祝う会を実施した。長寿を祝う会では利用者3名が対象で、それぞれ還暦・古希・喜寿、のお祝いを行った。

4. 健康管理

日常の健康管理の他に新型コロナ感染症対応マニュアルを作成し、送迎時、通所後の体温計測と風邪症状等の確認、室内の常時換気、消毒などマニュアルに沿って実施した。また、利用者に「新型コロナ」について話をし、マスクの着用、手洗いや消毒、換気を行うため協力をお願いした。職員についても、健康管理表を記入し業務に入ることを徹底した。その他、アクリル板、空気清浄機を設置した。

事業所内で感染者が出ることはなかったが、グループホームを利用している利用者1名が濃厚接触者となり、その後1/27陽性となり入院となった。

職員についても、1/15に1名と2/27に1名が家庭内感染で濃厚接触者となり自宅療養となった。また、1名が家庭内感染で1/26陽性判定を受け自宅療養となっている。

そのため、利用者、職員のPCR検査を実施した。全員陰性だったが、1月25～29日の間を休所し事業所内の消毒を行った。

- 体重・血圧測定 毎月末
- 利用者定期健康診断 9/15

5. 地域交流

○社会福祉士実習生の体験依頼があり受け入れた。

- ・東京家政大学 1名 8/26～28

○立石図書館のエコフェスタでエコポットを提供する予定だったが、行事が中止となった。

6. 防災

防火対策については、利用者の安全を最優先とし、安全かつ迅速な避難・通報訓練、電子学習教材を使用した消火訓練を行った。感染予防の為、大勢での避難場所への移動は行わなかった。また、必要な備蓄品の購入と交換を行った。

- ・7月9日 消火・通報・避難訓練（地震想定）
- ・9月18日 消火・通報・避難訓練（火災想定）
- ・12月11日 消火・通報・避難訓練（地震想定）
- ・3月12日 消火・通報・避難訓練（火災想定）

7. リスクマネジメント

ヒヤリハット5件、事故報告1件があった。送迎時の一連の確認が不十分、介助の際に態勢を崩し転びそうになる、トイレ内での転倒等の報告があった。ミーティングで検証し、基本的な確認の徹底と、個別ごとに見守りや介助方法の再確認を行った。

8. 職員研修

新型コロナの影響により前半の外部研修は開催中止となり、後半はオンライン研修で開催されたため、支援に必要な知識・技術を習得するために研修に参加した。

○内部研修

- ・認知症について 5/20
- ・障害者虐待と権利擁護 12/23

○法人内部研修

- ・ハラスメント防止研修 9/15

○外部研修

- ・会計セミナー 7/10 崎代
- ・感染症対策力向上支援業務における研修 12/16 1/13 崎代
- ・認知症の基本的理解とケアの視点 2/4 丸山美
- ・強度行動障害支援者養成研修（実践研修）2/16～18・24・26 嶋村美
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践研修）2/7・14・21 丸山美、安藤
- ・人権を守るってどういうこと 3/13 兒玉
- ・成年後見制度とは 3/15 石井

9. 第三者評価

- 株式会社にほんの福祉ネットにより第三者評価を受審した。